2002年度

講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学基礎講義 社会学の基礎理論と社会的現実	01	春学期集中	4単位	鈴木富久

［講義概要・学習目標］

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常社会生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ、併せて新旧の代表的社会学者の諸理論の学習を課す。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。

学習目標は、社会学の視野や方法論，基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、レポート・感想文等の提出物が多いし、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。

［講義計画］

【前期】

序．社会学とは何か

第Ⅰ部　基礎概念

§１．社会的存在としての人間

§２．行為と文化・社会規範

§３．組織と集団

§４．「社会化」と国家

＊併行して『人間再生の社会理論』を各自読む（各章感想文提出）

【後期】

第Ⅱ部．世界社会学の視野と現代日本社会

§１．世界システム論と受動的革命論

§２．日本の近代化過程

§３．戦後日本社会の展開（ビデオ併用）

1) 戦火のあと

2) 飛躍的復興

3) 奇跡の高度成長

4) オイルショック

5) 他

＊ビデオ感想文提出

§４．現代日本社会の形成と構造

［成績評価の方法］

①試験成績、②レポート成績（読書・ビデオ感想文等）、③出席点、等を総合して評価する。

［教科書］

鈴木富久『社会学講義ノート［増補・改訂版］』

小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会理論』創風社

［参考文献］

松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社

見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書

宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店

ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店

ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）

渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全４巻、大月書店

浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣

（その他、古典や基本文献を含め、教科書『社会学講義ノート』132-133 頁を参照）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学基礎講義	02	春学期集中	4単位	宮本孝二

［講義概要・学習目標］

社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この社会学基礎講義では、これから社会学を本格的に勉強する社会学部Ⅰ年生に、社会学の基礎知識と、社会学的分析の基本的方法を習得してもらうことを目的としている。

これまでの社会学の歴史には、多くの有名な社会学者が登場し、多大な研究成果を残してきており、現在も実に多数の社会学者が研究成果を蓄積しつつある。この講義では、それらの中から、基本となるものを精選し、体系的な構成のもとで順次紹介・説明する。まず、どのような社会現象にも存在する人間（パーソナリティと行為）と社会関係（相互行為、地位・役割）を把握する視点を提示した上で、家族、地域社会、職場・組織集団など基本的な社会生活の場、政治や経済や文化などの社会領域、不平等問題や環境問題や犯罪問題などの社会問題について、基本となる情報と分析視点・方法を詳解していく。

社会学はその基本的内容だけでも広範にわたるので、この講義だけではカバーしつくすことはできない。内容的に重なるところもあるが、共通教養科目の社会学も受講し、社会学の基礎を出来るだけ豊かに吸収していただきたい。

［講義計画］

1　社会学とは何か：社会学の歴史と現在

2　パーソナリティと社会化：意味づけと地位・役割

3　行為と相互行為：社会の基本的構成

4　家族：現代家族の変容と問題

5　地域社会：コミュニティの諸相

6　職場と組織集団：組織論の展開

7　階級・階層：人々の分類と不平等

8　経済：産業化、グローバル化、情報化

9　政治：パワーとコンフリクト

10　教育：学校教育の機能と逆機能

11　科学技術：リスク社会の成立

12　宗教：世俗化と脱世俗化

13　逸脱：価値・規範と犯罪・非行

以上の内容（補足あり）を順次約25回で講義する。

［成績評価の方法］

出席点、講義時間内に随時実施する内容まとめ小テストの成績、前期末テストの成績によって総合的に評価する。

［教科書］

倉橋重史・丸山哲央編『社会学の視点－行為から構造へ』（1987年、ミネルヴァ書房）

行為とパーソナリティというミクロな視点から出発し、家族、地域、職場などの基本的な社会生活の場の分析を経て、階級・階層や移動という全体的視点を押さえた上で、政治、経済、教育、科学技術、宗教、逸脱など諸領域・諸問題の基礎知識を提供してくれる。

［参考文献］

その都度指定する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学基礎講義	０３	春学期集中	４単位	竹内　真澄

[講義概要・学習目標]
いわゆる「基礎講」は、社会学部に入った新入生のための、スタートラインになる科目である。
だから、まず第一に、学問の入り口の場所で最も大切なことを心がけたい。それは、この世界、社会や時代の変化に新鮮な驚きをもって出会うことである。
第二に、このことと裏表になっていることだが、社会にすでに入り込んでしまっている自分とか周りの人たちが、実は、とても謎めいた存在だということ、この人間の謎的な社会性を問題化することである。
第三に、以上のことをテーゼふうにまとめると、こうなる。自分を知るためには社会をさぐるほかないし、またぎゃくに、社会を知ろうとすれば、自分を突き放していなくてはできないということを。
第四に、以上のことを、本当に君自身の経験によって、痛烈な痛みとともに、そして、目のくらむような違和感を伴って、味わいとる心を育ててほしいのである。
これらのことはとても原理的なことである。これらのことがわかれば、あとは自分で「社会学的」に歩けるようになるはずだ。

[講義計画]
<前半>は、時間や空間をずらしてみると、人間の生活、思考様式、感覚、などが変わってゆくものだということを、できるだけ具体的に扱う。
そのためには、いろいろと比較する。北欧と日本、６０年代と現在、本土と沖縄、男性と女性、共同体と市民社会などである。これによって、われわれは「宙づり」にされる。人間が非常に不確かで、いいかげんな、移ろいやすい存在でありながら、一旦安定すると、変化を恐れる固定的存在にもなりうることを考える。

<後半>われわれの社会が直面しているいろいろな問題を社会学的に解明し、その問題解決の可能性をさぐる。現代の貧困、働き方の問題、過労死、自殺、近代化、階層と階級、などである。

[成績評価の方法]
出席、毎回の感想、時折課すかもしれないレポート、年度末試験等から総合的に判定する。

[教科書]
なし

[参考文献]
吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波書店
渡辺　治『日本の大国化は何をめざすか』岩波ブックレット
広井良典『定常型社会』岩波新書
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書
阿波根昌鴻『命こそ宝　沖縄反戦の心』岩波新書
ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』ちくま学芸文庫
熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波新書
佐藤俊樹『不平等社会日本』中公新書
小池直人『デンマークをさぐる』風媒社
宮本みち子他『未婚化社会の親子関係』有斐閣選書
町田洋次『社会起業家』ＰＨＰ新書

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学基礎講義 社会学の基礎理論と社会的現実	０４	秋学期集中	４単位	鈴木富久

[講義概要・学習目標]
社会学があつかう問題は、すでに各人の日常社会生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ、併せて新旧の代表的社会学者の諸理論の学習を課す。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。
学習目標は、社会学の視野や方法論，基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、レポート・感想文等の提出物が多いし、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。

[講義計画]
【前期】
序．社会学とは何か
第Ⅰ部　基礎概念
§１．社会的存在としての人間
§２．行為と文化・社会規範
§３．組織と集団
§４．「社会化」と国家

＊併行して『人間再生の社会理論』を各自読む（各章感想文提出）

【後期】
第Ⅱ部. 世界社会学の視野と現代日本社会
§１．世界システム論と受動的革命論
§２．日本の近代化過程
§３．戦後日本社会の展開（ビデオ併用）
1）戦火のあと
2）飛躍的復興
3）奇跡の高度成長
4）オイルショック
5）他
＊ビデオ感想文提出
§４．現代日本社会の形成と構造

[成績評価の方法]
①試験成績、②レポート成績（読書・ビデオ感想文等）、③出席点、等を総合して評価する。

[教科書]
鈴木富久『社会学講義ノート［増補・改訂版］』
小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会理論』創風社

[参考文献]
松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社
見田宗介『現代社会の理論−消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書
宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店
ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店
ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全４巻、大月書店
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣
（その他、古典や基本文献を含め、教科書『社会学講義ノート』132-133 頁を参照）

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992 年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を報告したりレポート・論文に作成したりする基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の４つの項目である。

① テーマの発見 ： 社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。
現実の中に問題を発見する方法がまず学ばれねばならない。

② 情 報 収 集 ： 特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における観察やインタビューや体験などもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する方法について学ぶ。

③ 情 報 解 読 ： 収集された多種多様な情報は解読され整理されねばならない。
たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。

④ 口頭報告、討論、レポート・論文作成 ：

解読された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。
ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での４年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解読・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目にはかなりの違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称 ： 社会学科基礎演習
対　　象 ： 社会学部社会学科１回生
形　　式 ： ゼミナール
定　　員 ： 30 名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	巖　圭介	環境問題を考える	147
02	上田　修	みんなで学ぶ・現代日本社会	147
03	清水 由文	少子化を考える	148
04	鈴木 富久	映画で学ぶ社会学　－社会と人間－	148
05	竹内 真澄	新聞・雑誌から現代社会を読む	149
06	津金澤 聡廣	宣伝・広告史の研究	149
07	津金澤 聡廣	集客の社会学	150
08	西川 一廉	青年の心理を考える	150
09	原田　達	社会を観る	151

社会 ~02

1. ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とします。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。

2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。

3. 学則上、この科目は社会学部社会学科教育科目「学科選択科目（4 単位）」に位置づけられています。

4. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対象者 ： 02SS 生（社会学部社会学科 1 回生）

定　員 ： 30 名

日　時 ： 4 月 6 日（土）　9:10 ～ 13:00（昼休憩なし）

場　所 ： 学務課窓口

申込方法 ： 先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞ 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科基礎演習 （環境問題を考える）	01	通　期	4単位	巖　圭介

［演習概要・学習目標］

この演習では、環境問題を材料にして、大学生活に必要な基礎技術　－読む、書く、調べる、考える、伝える－　を身につけてもらう。

　環境問題に関する情報は身の回りにあふれている。興味のあるなしに関わらず、いろいろな環境問題について多少なりとも知識をもっているだろう。しかしその知識は多くの場合マスメディアの不十分で片寄った情報に基づいている。その不十分な知識を、自分で調べ、あるいは人の報告を聞き討論する中で修正していく。この作業の中で、学び考えることの基礎をトレーニングしたい。

グループ分けをした上で、個別のテーマごとに担当グループが発表を行い、全員で討論し小レポートを作成する。

　年度末には、協同して独自の環境問題テキストを完成させることを目標とする。

［演習計画］

第１部：基礎の基礎
　情報の探し方、まとめ方、伝え方

第２部：環境問題を考える
　地球温暖化
　オゾン層破壊
　化学物質汚染
　ゴミ問題
　エネルギー問題
　砂漠化
　・・・・・

第３部：環境問題を伝える
　分担してテキストを執筆する

［成績評価の方法］

出席、報告、参加度、レポートなどを総合的に判断して評価する

［教科書］

とくになし

［参考文献］

遠山益　『人間環境学』　裳華房　2001

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科基礎演習	02	通　期	4単位	上田　修

［演習概要・学習目標］

　この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによって、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心にそって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心に任せるが、採り上げられた問題・・・例えば、校則・いじめに典型される教育問題、家族の変容、テロリズムと宗教といった問題・・・が社会学的にいかに説明できるのかを、演習計画に示したプロセスを通して考える。

［演習概要・学習目標］

1　班の構成
　①最初に、各自の問題関心にもとづくグループ化（班構成）をおこない、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。
2　第1次班別報告
　若干の準備期間を設けた後、１によって構成した班から1度に１テーマづつ報告を受け、小グループ（３～４グループ）に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。
3　第2次班別報告
　第1次班別報告が一巡した後、再び各自の問題関心にそって班別構成を再編成し（どのようにおこなうかは演習参加者の希望を聞いた上で決める）、班別報告の第2ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第1ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによって、徐々にではあれ、多人数のなかででも発言できる力をつけていく。
5　レポートの提出
　演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。

［成績評価の方法］

①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合的に勘案して評価する。

［教科書］

使用しない

［参考文献］

その都度、指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科基礎演習	03	通期	4単位	清水由文

[演習概要・学習目標]

女性が生涯において産む平均子供数をあらわす合計特殊出生率は１９９９年には１．３４まで減少しており、先進国のなかでも日本は超少子化の国になってしまった。現在の人口を維持するにはそれが２．１以上でなければならないといわれている。このままであれば、子供人口は老齢人口に追い抜かれることになる。ここではそのような少子化現象の原因およびそれらから生じる問題点を検討することにしたい。本演習では基本的にそのようなテーマの理解するために、① いかに情報を収集するか、② どういう点が問題か、③ それをいかにまとめるか、④ いかに報告するか（口頭や書くこと）という作業をとおして進めていく。

[演習計画]

（春学期） ① 図書館での資料収集 ② インターネットのホームページによる資料収集 ③ ワープロの基礎的練習 ④報告レジュメの作り方 ⑤ 報告の仕方

（秋学期） ① グループ単位でのテキストの報告 ② レポートの書き方 ③ 各自のテーマで最終レポートの作成

[成績評価の方法]

① 出席、② 授業での報告、③レポートで総合評価する

[参考文献]

随時提示する。

[教科書]

野村一夫『社会学の作法・初級編』文化書房博文社

鈴木りえこ著『超少子化―危機に立つ日本社会』(集英社新書)

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科基礎演習 映画で学ぶ社会学－社会と人間－	04	通期	4単位	鈴木富久

[演習概要・学習目標]

小津安二郎「生まれてはみたけれど」

人間は環境の産物である。かってインドで狼に育てられた子が発見された。四肢で走り、動作と情動は狼そのものだった。他面、人間は環境を変えもする。人類史を通じて時代ごとに社会と人間は深い変貌をとげてきた。この変貌をここ70年ほどの間に激動をくぐりぬけてきた日本の場合において追体験し、現在の人間形成と社会の現実を考えたい。

本ゼミは、このため、1930年代以来の代表的な日本映画のなかから青少年を主人公にした名画を時代順に鑑賞し、そうした映画で〈社会学する〉ゼミである。子どもはつねに時代の社会的現実を率直に写す鏡であった。「ムカツク」「キレル」「学級崩壊」という子どもの姿から、現代日本の社会的現実が浮かび出る。映画から歴史的な変遷をみたうえで、今日の子どもと広義の教育の諸問題を通じて「社会と人間」の問題に接近することにする。自己の再認識に資することを狙いに含む。

狙いの基本は社会学への導入である。そこで、映画鑑賞後、感想の交換、文献研究、討論、等々と多面的に取り組み、論文の書き方も指導する。積極的な学生を望む。

[演習計画]

《演習計画》

《前期》 1.『狼に育てられた子』読後討論。

2.映画・小津安二郎「生まれてはみたけれど」1932, 黒沢明「一番美しく」1944, 同「わが青春に悔いなし」1946, 今井正「青い山脈」1949, 等を観て、戦前・戦中・戦後という時代の転変と人間の有様の変容を考える。

3.若干の文献研究と討論

《後期》 1.ビデオ「60年安保と岸信介」, 映画・浦山桐郎「キューポラのある街」1962, 同「非行少女」1963, 同「私が棄てた女」1969, ビデオ「全共闘運動」, 映画・山田洋次「学校」1993, その他から選択、鑑賞し, 高度成長期から今日にいたる社会の変動と人間の変容を考える。

2.文献研究と個人研究報告をへて、学年末の総仕上げの論文作成に向かう。

＊ゼミは学生の自主運営を図る。人数によっては班編成をとって討論する。

＊ゼミ生の鑑賞感想文はすべてコピーし全員に配布する。

[成績評価の方法]

出席点, レポート（論文および映画・読書の感想文）, 討論およびゼミ活動全般への積極性如何等の総合評価。

＊ゼミナールでは無断欠席は認められない。

[参考文献]

●吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫●加藤恒男編『社会倫理の探究－哲学と社会学の視座から』ﾅｶﾆｼﾔ書店●ﾎﾞﾙﾄﾏﾝ『人間はどこまで動物か』岩波新書●ｱﾘｴｽ『〈子ども〉の誕生』みすず書房●深谷昌志『無気力化する子どもたち』NHKﾌﾞｯｸｽ●芹沢俊介『子どもたちはなぜ暴力に走るのか』岩波書店●清水賢二編『非行少年の世界』有斐閣●城丸章夫『管理主義教育』新日本出版社●中内・他『日本教育の戦後史』三省堂●柴野・菊池・竹内編『教育社会学』有斐閣●池谷・他『競争の教育から共同の教育へ』青木書店●乾彰夫『現代日本の教育と企業社会』大月書店●大内洵子『ｼﾞｭﾝｺ先生のﾄﾞｲﾂ教育体当り奮戦記』五月書房●宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫●太田素子『江戸の親子』中公新書●Ｅ・ﾌﾛﾑ『自由からの逃走』東京創元新社●ﾘｰｽﾏﾝ『孤独な群衆』みすず書房●桜井哲夫『「近代」の意味』NHKﾌﾞｯｸｽ●小池直人『ﾃﾞﾝﾏｰｸを探る』風媒社●熊沢・清・木本『映画ﾏﾆｱの社会学－ｽｸﾘｰﾝにみる人間と社会』明石書店●山田和夫『日本映画101年』新日本出版社

[教科書]

シング『狼に育てられた子』福村出版

尾木直樹『「学級崩壊」をどうみるか』日本放送出版協会

堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科基礎演習	05	通期	4単位	竹内　真澄

［演習概要・学習目標］

年間を通じて、あらかじめ定めておいた月刊誌、週刊誌、新聞を読み、社会事象を読みとるトレーニングを行う。また、各メディアには、それぞれに編集の立場なり観点があるので、同じニュースにたいしても、異なる評価、価値観があらわれることを相互比較し、考察、検証してみたい。
さらに、このようなメディア比較の方法を鍛えるために、余裕と必要があれば、メディア論、各メディアの歴史、世論と世論操作、社会の支配構造とメディアの機能などについて考え、「自立した公共圏」を形成するうえでのメディアの可能性あるいは危険性について考えてみたい。

［演習計画］

複数の担当者を決めて、毎回いろいろな雑誌、新聞を読み、レポートをおこなってもらう。
また、必要に応じて、メディア論として参考になる文献を取り上げる。

［成績評価の方法］

出席、報告、発言、レポート、試験などを総合して判定する。

［教科書］

なし

［参考文献］

ステファン・エルフェンバイン
『ニューヨークタイムズ　あるメディアの権力と神話』木鐸社、2001年

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科基礎演習	06	通期	4単位	津金澤　聡廣

［演習概要・学習目標］

研究テーマ「宣伝・広告史の研究」

宣伝・広告の歴史やその研究史の学習をとおして、現代社会における宣伝・広告の果す社会的機能やその問題点について検討を進めたい。

［演習計画］

教科書の内容に添うて次のテーマで学習する。
1. 宣伝・広告以前の宣伝・広告活動
2. 政治宣伝と広告活動
3. 広告代理店の胎頭
4. 宣伝合戦の先駆的・実力者たち
5. 生活文化革新の演出者
6. 図案家・文筆家の系譜
7. 宣伝・広告研究史の課題

［成績評価の方法］

出席状況、発表・報告、レポート提出など平常の学習努力を総合的に評価する。

［教科書］

山本武利・津金澤聡廣　著
『日本の広告－人・時代・表現－』
世界思想社、１９９２年

［参考文献］

その都度指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０７	通　期	４単位	津金澤　聡　廣

［演習概要・学習目標］

研究テーマ「集客の社会学」

これまで未開拓な研究分野といえる「集客」現象に注目し、その実態や集客産業の現状、および集客理論の研究史について基礎的学習から進めたい。
夏休みには、基礎演習参加者全員が各自任意の集客施設を訪問実査し、その報告書を作成し、検討・考察を深める。

［演習計画］

教科書の学習から出発し、問題点の把握に務める。

1．　集客事業の実態について学習する。
2．　各種集客施設の内容の検討。
3．　夏休み中に、各自任意の集客施設をえらび、訪問実査して、報告書を作成し、論点を整理・考察する。
4.　集客の社会学・集客理論の基礎について学習。
5.　集客産業の基本特性とは？
6．　集客都市のマーケティング
7．　戦後日本の集客史研究

［成績評価の方法］

出席状況、発表・報告、レポート提出など平常の学習努力を総合的に評価する。

［教科書］

貴多野及武次　著
『集客のプランニング・ランゲージ』
遊時創造　１９９７年

『集客都市』
ASP　１９９８年

橋爪紳也　著
『日本の遊園地』
講談社現代新書　２０００年

［参考文献］

その都度指示する。

社会 ~02

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０８	通　期	４単位	西川　一廉

［演習概要・学習目標］

「青年の心理を考える」が当演習のテーマである。
青年期はいわゆる子どもから大人への移行期に当たる。心身共に人生の中でもっとも変化が激しく，それゆえ激動の時代とも疾風怒濤の時代ともいわれてきた。この時期は一般に前期，中期，後期に分けられるが，大学時代は青年期後期に当たる。いわば青年期の総仕上げをし，子ども時代を卒業して，大人の仲間入りを果たす最終段階である。しかし周知のようにモラトリアムが長く，身体は大人だが，精神はいつまでも子どもでいる人も多い。
当演習の目的は，当事者である新入生諸君が自分たちで青年の心理について考えながら，これから始まる大学生活に向けて準備をすることである。相互に意見交換をしながら，私たちは何処からきて，何処へ行こうとしているのか，どのようになりたいと思っているのかなどを考えるのである。
そのためには積極的な探求の姿勢が必要である。与えてくれるのを待つ受け身の学生はいらない。

［演習計画］

小グループに分かれ，さまざまなテーマを設定して討議や実習を繰り返す。討議の成果はクラスに口頭発表をする。またレポートにまとめてクラスで報告する。
グループは適宜，組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。
前期末，後期末にはレポートを課す。

［成績評価の方法］

出席，報告，討議への参加，レポートをもとに総合的に評価する。

［教科書］

未定。

［参考文献］

随時，指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学科基礎演習	０９	通　期	４単位	原　田　　達

[演習概要・学習目標]

演習のテーマは<社会>と出会うこと。
解るようで解らないのが<社会>、出会ってないようで出会っているのが<社会>、出会っているのにであっていることに気づかないのが<社会>、この奇妙な<社会>というものに出会い、気づき、解ることを演習のテーマとしたい。
まず、語り合うことから始めたい。<語り>の中にすでに<社会>はある。と同時に、<語り方>を身につけよう。
ついで<読むこと>、さらに<書くこと>、そして<観ること>、その度に君たちは<」社会>と出会うことになるだろう。こうして、社会学の基礎を身につけてゆくはずだ。

[演習計画]

まず自らを語ることから始めたい。その語りを多謝に伝えること。これが簡単なように見えて、結構むつかしい。ぼくたちは自己呈示（プレゼンテーション）の仕方を知らない。その技法を身につけること。
その次は「適当」な本を読む。「適当」というのは「いいかげん」という意味ではない。みちたち自信が「これは！」と感じた本のこと。そこに「社会」を発見すること。
その上で、きみたちの「社会」との出会いを書く。それは本がもたらした「社会」との出会いだ。こうして準備が整う。
最後に社会を観ること。きみたち自信の感性で人と街、ファッションと振る舞い、行動と雰囲気を観ること。観察眼が養われるだろう。

[成績評価の方法]

総合的に評価する。とりわけ積極性。

[教科書]

使用しない。

[参考文献]

演習のなかで指示します。

社会～02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学原論		秋学期集中	４単位	宮　本　孝　二

[講義概要・学習目標]

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を、体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析や、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。
したがって、社会学原論は社会学史と内容的に大きく重なる。しかし、社会学史のように時系列的に多様な社会理論を紹介し発展の軌跡を描くのではなく、設定された一般理論的問題に現時点でどうかかわるかという視点からそれらを取り上げる。
また、社会を一般的に問うことは、社会を全体的に問うことに接続していかざるをえず、マクロな変動論を媒介として社会学原論と社会を全体的に把握することを目指すという意味での現代社会論が統一的に把握されることになるので、それについても解説する。

[講義計画]

1　社会学原論とは何か
2　相互行為の４つの側面①コミュニケーション
3　相互行為の４つの側面②サンクション
4　相互行為の４つの側面③エクスチェンジ
5　相互行為の４つの側面④コンフリクト
6　中心概念としてのパワー
7　構造という視点①内容規定と相互行為との関連づけ
8　構造という視点②構造機能主義と構造主義
9　構造という視点③場と全体をめぐる論点
10　社会学における認識論的諸問題
11　全体的視点：変動論と現代社会論
12　社会理論の諸相：現代の社会理論家たち
以上の内容を順次約25回で講義する。

[成績評価の方法]

原則として後期試験（授業中に配布する講義内容要約資料から出題する空欄埋め問題と、テーマを自由に設定し講義内容と関連づけて論じる記述問題）によってのみ評価する。ただし、自由提出のレポート（講義内容に関して自分で調べて書くものなど）によって若干加点する。

[教科書]

宮本孝二『ギデンズの社会理論』（1998年、八千代出版）
現代イギリスの、というよりは現代世界の代表的社会学者アンソニー・ギデンズの社会理論の全体像をまとめ、社会学原論と現代社会論の可能性を探究している。

[参考文献]

その都度指定する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学史		秋学期集中	４単位	竹内　真澄

［講義概要・学習目標］

社会学史とは、社会学の歴史のことである。けれども、昔のことを昔のこととしてだけ語ってもつまらないから、昔の人たちがあれこれ考えたということを受動的に解説するような授業はやめておく。
むしろ、現代を深く掘り下げていったときにどうしてもぶつかるような社会の深層、あるいは自分を掘り下げていったときにどうしてもぶつかる自己の深層が忽然と浮かび上がるようなかたちで、社会学と出会いうるように話を構成してみたい。したがって、話の順序も、古いものから新しいものへ順次降りてくるのではなく、ぎゃくに新しいものから古いものへ遡及する。現在の社会を洗い直してみると、意外に、その根っこにあるのは古い社会の完熟や形態変化であることを想い起こしてみたい。
まず最初に、私たちが生きている現在の日常生活の諸局面を社会学がどう見ているかを考える。家族、ジェンダー、学校、企業社会、近代世界システム、消費化、公共圏など、私たちの生きる場にせりあがってきている問題局面を、機能主義、フェミニズム、批判理論など、現代社会学の先端部の眼で見つめる。それらは、要するに＜近代＞が各局面で煮詰まりつつあるということを示しているであろう。
そのうえで、後半部では、現在のわれわれが抱えている現実が、１８世紀以来の社会学的思考において発見されたものの濃縮であり、抵抗の持続であり、それらの形態変化であることを見る。
重要なことは、かつては大社会学者とか達人と呼ばれる少数の人々によってしか見通すことしかできなかったことが、今日では近・現代社会の発展そのものによって、普通の生活者にとってヨリ実感できるものへ、ヨリ把握しやすいものへと変わりつつあるということである。＜近代＞を発見し、批判し、再提起したのは、スミス、マルクス、そしてウェーバー的な思考様式であった。いま文明の転換期を迎えて、これら三つの思考は同一平面上で拮抗しているように思われる。いわゆる複数パラダイムの競合である。問題は、これらの三者が見据えた社会の複数の像からわれわれが何を引き出すかであろう。このことをできるだけ原理的に考えてみたい。

［講義計画］

＜前半＞
私たちの生活にとって最も身近な社会領域である、家族、ジェンダー、学校、近代世界システム、情報化＝消費化、公共圏といった現代的な問題領域を一つ一つ取り上げて、その領域をめぐる社会学者たちの対抗を比較史的に考察する。ここではエンゲルス、フェミニズム、ドーア、パーソンズ、ウォーラーステイン、ボードリヤール、見田宗介、ハーバーマス等を扱う予定である。前期の結論は、これらの身近な社会局面が結局のところすべて＜近代＞という巨大な深層から派生してきた表層であるということである。

＜後半＞
前期に見た成果を踏まえると、問題の根源は＜近代＞とはいったい何かというところへ絞り込まれていった。ところで、＜近代＞に対する社会認識は１８世紀以降三つの立場に分化していく。三つの立場を基礎的に、18世紀Ａ・スミス、19世紀Ｋ・マルクス、20世紀Ｍ・ウェーバーによって代表させることができる。これら三者の社会理論を私たちが今日的にどう受け止めるかに課題が絞り込まれていく所以を後期の中間総括とする。最後に時間があれば、前期に扱った表層的現実に直接つながる問題構成が世界社会論と社会心理学にあることに触れ、社会学的認識の円環は閉じられる。

［成績評価の方法］

年度末試験によって評価するが、授業の進行をみてレポートを課す場合は、両者を総合して評価する。

［教科書］

伊藤、大関、小林、鈴木、竹内著『人間再生の社会理論』（創風社）

［参考文献］

参考文献
Ｔ.パーソンズ『社会的行為の構造』（木鐸社）
Ｊ.ハーバーマス『コミュニケイション的行為の理論　上中下』（未来社）
内田　義彦『社会認識の歩み』（岩波新書）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
現代社会論		春学期集中	４単位	原田　達

［講義概要・学習目標］

今年の講義では、ひとりの知識人を取り上げて、第二次大戦後の日本社会の文化と構造に迫りたい。
ここで取り上げる知識人とは、鶴見俊輔である。現在の学生さんにはあまり馴染みのない人かもしれない。しかし、戦後社会でこの人がはたした役割はおおきい。その影響は社会学だけでなく、文化研究、映画・まんが研究、文学研究など多岐にわたっている。また、戦後政治にたいする根本的な疑問の提示は、一時期、人びとにおおきな影響をあたえた。

この講義では、ひとりの知識人を追いかけることによって、戦後日本社会の構造と変化について学んでくれれば、と思う。

［講義計画］

まず、鶴見俊輔とはだれかから始めたい。と同時に、明治以来の日本社会の特徴について論じたい。その際、注目したいのが、「社交資本」という概念である。鶴見俊輔の「社交関係」を追いかけてみると、この国にはある時期、「文化的支配階級」とでも呼びうるような社会階層が存在していたことがわかる。この階級は、たとえばイギリスのジェントリー、ドイツの教養市民層に比べれば、薄っぺらな社会層でしかなかった。しかし、かれらが近代日本社会の基礎を作りあげたこともまた疑いない。
この講義は、鶴見俊輔を狂言回しにして、現代日本社会の成立と変化について論じる予定である。

［成績評価の方法］

試験をおこなう。思い出したようにレポートを課すかもしれない。

［教科書］

原田達『鶴見俊輔と希望の社会学』（世界思想社）

［参考文献］

その都度指示します。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会心理学	01	通期	4単位	金児曉嗣

［講義概要・学習目標］

社会心理学とは、人間の行動を他の人との関わりのなかで、また、文化的営みとの関連のなかで、科学的に分析しようとする学問である。

この講義では、われわれの日常生活に深く関わりのある社会心理学上のテーマを取り上げ、とくに若者に焦点を据えて人間関係、集団、文化などの問題について述べたいと思う。受講生諸君は日常生活への洞察を得て、自己や他者、異文化をみる感性を養い、社会的適応へのヒントを得ることができるものと期待している。これが本講義の目標でもある。

この目標を実現するために、前半では、社会的環境における基本的な心理過程を中心に取り上げ、後半では、他者・集団・文化との関わりにおける心理過程について考え、最後に社会現象に触れることにしたい。

［講義計画］

予定している授業内容は以下のとおりである。

なお、社会心理学は机上の空論ではなく、現象とデータが重視される科学的・実証的な学問である。このために、視覚的材料（スライド・ビデオ・OHP）を活用する。

Ⅰ．イントロダクション：(1)心理学とは？　(2) 社会心理学とは？
Ⅱ．社会的思考：　(3) 自己　(4)社会的認知　(5) 態度の形成と変容
Ⅲ．社会的影響：　(6)同調行動　(7)説得　(8) 集団の影響
Ⅳ．社会的関係：　(9) 攻撃と援助　(10)恋愛　(11)対人的コミュニケーション　(12)集合行動　(13) 信じる心と社会

［成績評価の方法］

時折小テストを行ったり、講義中にアンケート調査を実施したりして、それを講義の材料とする。要するに出席が重視される。

［教科書］

使用しない。毎回、資料を配布する。

［参考文献］

E. アロンソン（古畑和孝監訳）『ザ・ソーシャル・アニマル ――人間行動の社会心理学的研究』（サイエンス社）
R. B. チャルディーニ（社会行動研究会訳）『影響力の武器 ――なぜ、人は動かされるのか』（誠信書房）
池上知子・遠藤由美　『グラフィック 社会心理学』（サイエンス社）
金児曉嗣編　『サイコロジー事始め』（有斐閣）
大橋正夫・佐々木薫編　『社会心理学を学ぶ』（有斐閣）
高木修編　『社会心理学への招待』（有斐閣）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会心理学	02	通期	4単位	小牧一裕

［講義概要・学習目標］

社会心理学は、その社会における人々の日常生活の心理状態、また、他人との関係（対人行動）及びその社会において人々が行う行動（社会的行動）の原因やそのメカニズムについて解明し、説明するための学問である。この講義を通して、現在の自分の心理状態や自分の行う行動について自分自身で再考することを目指す。

［講義計画］

前期は、社会的な現象から影響を受けてパーソナリティが形成されてくるプロセス（日本の文化・家庭・学校・地域社会などからの影響：社会化）について、後期は、対人関係・対人行動（態度・対人魅力など）、集団の心理、大衆社会現象などについて説明していく。

［成績評価の方法］

積極的な授業への参加、レポート提出、試験などで総合的に評価する。

［教科書］

杉野・安藤他「人間関係を学ぶ心理学」福村出版　１９９９

［参考文献］

必要に応じて指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
家　族　社　会　学		通　期	４単位	菰　渕　　緑

[講義概要・学習目標]

家族はこれまで社会の基礎単位として位置づけられてきたが、現代社会ではその家族の存在が改めて問われている。本稿では家族の変遷を歴史的な流れの中で把握し、社会と家族との関連を考える。また家族の非典型的形態を見ることによって、逆に家族の存在理由を問い直す。さらに急激な変化を経験した家族の姿を通して、家族の多様性という視点から現代家族が抱える諸問題を分析していく。

なお、家族をよりよく理解するために、背景としての社会についての考察を適宜取り入れていく。

[講義計画]

1. 家族の本質ー家族とは何か
2. 非典型的家族の存在に見る家族のあり方
3. 家族と文化
4. 家族の構造と機能
5. 家族の変遷
6. 家族における社会化とパーソナリティ
7. 家族の内部構造ー勢力構造と役割構造
8. 諸外国における家族の実態
9. 家族の将来像ー家族政策および家族福祉の視点から

[成績評価の方法]

筆記試験によって評価する

[参考文献]

清水　由文・菰渕　緑　編『変容する世界の家族』
１９９９年　ナカニシヤ出版

[教科書]

未 定

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
村落社会学		秋学期集中	４単位	清　水　由　文

[講義概要・学習目標]

第２次大戦後日本の食料自給率は経済成長とは逆行して漸次低下し続け現在では３０％台である。そのような食料問題は現代日本における重要課題の１つである。その問題は日本の農業の変化と食の多様化、欧風化への変化という２つの側面から明らかにされる必要がある。そこで前半では日本の農業・農村がどのように変化したのかを食の変化と関係づけて検討し、さらに農業を環境の視点からも明らかにしたい。また後半では日本の農民あるいは農家はどのように生活してきたのかという視点から検討してみたい。

[講義計画]

１．戦前の日本農村の特質ー地主制と関連させてー　２．農地改革の特質と意義　３．高度成長経済と日本農村の変化　４．新食糧法の特質と問題　４．食の高度成長　５．食の多様化　６．環境からみた農と食（遺伝子組替え食品、狂牛病など）　７．グリーン・ツーリズム　８．伝統的家族としての「家」概念　９．日本農村における家族　１０．日本農村の親族組織　１１．日本農村の村落の特徴と現状　１２．日本の村落の地域性　１３．日本の村落の組織と運営

なお以上のようなテーマに対して適宜ビデオを用いることにより視覚的に理解できるようにしていきたい。

[成績評価の方法]

試験、リポート、講義中の小リポートの総合評価による。

[参考文献]

随時紹介する

[教科書]

使用しない

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
都市社会学		秋学期集中	4単位	竹　中　英　紀

［講義概要・学習目標］

都市とは、どのような地域社会なのだろう。それは、都市ではない地域社会（たとえば農村）と比べて、社会構造や人間関係のうえでどのような特色を持っているのか。また現代都市のさまざまな問題をどのように理解したらいいのか。

この授業では、都市社会学の基礎的な概念や理論について学習するとともに、身近な都市の社会的現象をいくつかあげて、その理解を深めていくことをめざしたい。

［講義計画］

次にあげるテーマを各1～3回ずつに分けて講義する予定である。

1. 都市の社会学的定義
   ――アーバニズムとサブカルチャー――
2. 都市化の歴史と心情の歴史
   ――流行歌の変遷――
3. 都市の空間的構造
   ――インナーシティとサバービア――
4. 都市の社会階層と移動
   ――不平等都市《大阪》の社会構造を考える――
5. 都市の社会集団
   ――町内会から「公園デビュー」まで――
6. 都市の人間関係
   ――現代人のパーソナル・ネットワーク――

［成績評価の方法］

出席および授業中の課題提出状況、筆記試験の成績を総合して評価する。

［教科書］

授業時に印刷教材を配布する。

［参考文献］

C・S・フィッシャー『都市的体験』（未来社）
町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣）
松本康編『増殖するネットワーク』（ミネルヴァ書房）
大谷信介『現代都市住民のパーソナル・ネットワーク』（ミネルヴァ書房）
金城光秀『てなもんや大阪ガイドブック』（文芸社）など

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
宗教社会学		通　期	4 単位	清　水　夏　樹

［講義概要・学習目標］

日本および西洋の宗教史をたどりながら、近・現代社会に果すその役割と機能を考える。明治以降の新宗教運動の一端をみ、戦後社会の病理―といって悪ければ“影の部分”当面する社会の問題領域を理解する手がかりとしたい。宗教にまつわる問題は、ある意味で社会学の窮極の（もしくは底流をなす）課題とさえいえる面をもつ。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、また文化人類学、民俗学上の基礎知識・事例研究にも触れながら、現実の「社会」と個々の生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講義をすすめたい。

随時プリント・資料を配布、それらをもとに必要に応じ簡易テストやレポート提出を試みる―欠席日数が多いと単位取得に支障をきたすことに注意のこと。なお、下記の要項は内容上前・後期にわたり錯綜し、各個に連動する側面をもつ点を断っておく。

［講義計画］

〈前期〉聖と俗、わが国固有信仰と祭りの習俗、修験道等伝統儀礼にみるシンボルの動態構造、宗教の世俗化とその逆反現象――同じく再生（再聖化）とdemonization、カリスマの社会化

〈後期〉神仏習合にみる日本人の信仰心の特徴、その前史的基盤、日本近代化の舞台裏を担うものとしての新宗教教団の意義、経済発展と宗教倫理との逆説的な関係、近・現代社会のひずみと宗教ブーム

［成績評価の方法］

学年末試験
ほか、提出レポート、簡易テストを評価、判断材料とする。

［教科書］

［参考文献］

追って随時指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
教育社会学		通期	4単位	山内乾史

[講義概要・学習目標]

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から捉えていく方法について検討することを目的とする。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に巨視的な分析方法が必要とされる。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していく。

講義は多人数になることが予測されるので、ＯＨＰやビデオによる資料提示が多くなることと思われる。

[講義計画]

1．イントロダクション
2．教育社会学とは何か？：日米英を比較検討していく基本的枠組みについて
3．日本における学歴社会論（1）～（3）
4．アメリカ合衆国の教育史（1）～（3）
5．イギリスの教育史（1）～（3）
6．日本における学力低下問題と改革（1）～（3）
7．アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（1）～（3）
8．イギリスにおける学力低下問題と改革（1）～（3）
9．日本における大学改革と教育機会の変化（1）～（2）
10．アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（1）～（2）
11．イギリスにおける大学改革（1）～（2）
12．まとめ：日米英の教育問題と教育改革

[成績評価の方法]

成績評価は試験とレポート、及び授業時に課すクイズによる。具体的な方法については、講義の時に指示する。

[参考文献]

宮崎和夫・米川英樹編『現代社会と教育の視点（第三版）』ミネルヴァ書房、2002年

[教科書]

米川英樹・江原武一編『自己意識とキャリア形成ーアメリカ高校卒業生にみるー』学文社、1996年

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
心理学	０１	春学期集中	4単位	冷水啓子

[講義概要・学習目標]

これから心理学を学ぼうとするみなさんは，「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか？　近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」，「深層心理学」，「臨床心理学」，「カウンセリング」といった類のものがイコール「心理学」である（それら以外は，たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という強固な先入観（あるいは偏見）にとらわれているのが大勢ではなかろうか。もちろん，それらは「心理学」のなかで重要な分野であるが，「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく，きわめて広く学際的である。

わたしたちの日常的活動を例に考えてみよう。わたしたちは周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら，日常生活を円滑に営んでいる。しかし，普段何気なく行っている，見る，聞く，感じる，考える，覚える，判断するといった活動も，実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっている。このように，外界から取り入れた情報を，必要に応じて加工，貯蔵，利用するという，人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。そこで，本講では，近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観し，人間の心のしくみとはたらきについて総合的に理解していくことを目指す。

なお，授業に関連する資料は，コンピュータ，ＯＨＣ，ＶＴＲ，印刷物などを通じて適宜提供する。簡単な心理テストや実験・調査も可能ならば導入したい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

[講義計画]

1．心理学とは何か？：「心のしくみとはたらき」の理解
　1）心理学の歴史
　2）心理学の研究方法
2．感覚と知覚
3．学習と記憶
　1）学習の理論
　2）観察学習
　3）記憶の構造
　4）日常的記憶
4．意識・思考・言語
　1）問題解決と推論
　2）表象と言語
5．動機づけと情動
6．発達
　1）初期発達
　2）遺伝と環境
　3）発達理論
7．性格
　1）類型と特性
　2）性格テスト
8．対人関係

〔但し，授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

[成績評価の方法]

学期末に試験を実施する。必要に応じて，簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

[参考文献]

福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』（東京大学出版会）
梅本堯夫・大山正（共編著）『心理学への招待―心の科学を知る―』（サイエンス社）
他

[教科書]

梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学―心のはたらきを知る―』（サイエンス社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	02	春学期 集　中	4単位	伊藤　高章

［講義概要・学習目標］

1　心理学の概要を理解させる。
2　乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
3　心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
4　心理的援助技法の概要について理解させる。
5　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［成績評価の方法］

ブックレポート　3本（予定）
学年末試験

［教科書］

小此木啓吾・深津千賀子・大野裕（編）
『心の臨床家のための必携精神医学ハンドブック』（創元社）
600頁、3,500円

［参考文献］

［講義計画］

1　人間の心理学的理解
　1）欲求・動機づけと行動
　2）感情・情動
　3）感覚・知覚・認知
　4）学習・記憶・思考
　5）知能・創造性
　6）人格
　7）適応と適応異常
2　人間の成長・発達と心理
3　人間理解のための心理学理論と技法
　1）基礎理論
　　①精神分析
　　②行動分析
　2）測定と診断
　　①発達
　　②知能
　　③性格
4　心理的援助技法の概要
　1）心理療法（個別面接法・集団面接法）
　2）家族心理療法
　3）行動療法

社会
~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	03 04	通　期 通　期	4単位 4単位	加納　真美

［講義概要・学習目標］

『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学がどのような日常の問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に進化の過程にある人間のしくみに関する解明と社会の中での人間という観点から、人間の行動に関する解明を心がけたい。

［講義計画］

1　心理学とは何か
2　物をどう見るのか（知覚）
3　どのように学び、覚えるのか（学習と記憶）
4　なぜ行動するのか（欲求と感情）
5　どのように発達するのか（発達）
6　人とどのように結びつくのか（愛着）
7　自分をどう見るのか（人格、性格、自己意識）
8　人をどう見るのか（対人認知）
9　なぜ心ひかれるのか（恋愛の心理）
10　メッセージをどのように読み解くのか（非言語的コミュニケーション）
11　どのように説得されるのか（態度）
12　人に対する行動－攻撃と援助
13　人間関係の心理

［成績評価の方法］

期末の筆記試験、レポート、授業態度等を総合的に評価する。

［教科書］

『やさしい心理学』　水田惠三著　北大路書房　1996　2200円＋税

［参考文献］

・ジョージ・バターワース他著　村井潤一監訳、『発達心理学の基本を学ぶ』、ミネルヴァ書房、1997年
・尾見康博・伊藤哲司編著、『心理学におけるフィールド研究の現場』、北大路書房、　2001年
・伊藤哲司著、『常識を疑ってみる心理学』、北樹出版、2000年
・菊池　聡・谷口高士・宮元博章編著、　『不思議現象　なぜ信じるのか　こころの科学入門』、北大路書房

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
心理学	05	秋学期集中	4単位	林　陸雄

[講義概要・学習目標]
個々の人間について、その特性を的確に把握し理解することは困難である。しかし、現実社会が多くの多様な価値観と生き方をもつ人々によって構成され、それらの人々の相互作用によって営まれている以上、人々にとって的確な人間理解能力は必要不可欠といえよう。
個々の人間理解の前段として、一般的にいって人間とは何か、人間はどのように行動するのかについて、現代心理学の立場から概観する。

[講義計画]
1．心理学とは1
2．心理学とは2
3．知覚の仕組み1
4．知覚の仕組み2
5．知覚の仕組み3
6．記憶の仕組み1
7．記憶の仕組み2
8．記憶の仕組み3
9．思考の仕組み1
10．思考の仕組み2
11．思考の仕組み3
12．前期の補足1
13．前期の補足2
14．前期のまとめ1
15．前期のまとめ2
16．社会的認知の仕組み1
17．社会的認知の仕組み2
18．社会的認知の仕組み3
19．感情の働き
20．動機づけとは
21．パーソナリティとは1
22．パーソナリティとは2
23．パーソナリティとは3
24．発達と成長1
25．発達と成長2
26．発達と成長3
27．後期の補足1
28．後期の補足2
29．後期のまとめ1
30．後期のまとめ2

[成績評価の方法]
数回の章単位のレポート、期末考査の結果を総合して行う。

[参考文献]
授業中に適宜紹介する。

[教科書]
北尾倫彦，中島実、井上毅、石王敦子　共著
『グラフィック　心理学』
サイエンス社

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会病理学		通期	4単位	菰渕　緑

[講義概要・学習目標]
社会病理学は、社会に生じている解決困難な諸問題を分析するための学問の一つである。社会的な諸問題が生じてくる原因、過程、結果などを理論的に究明し、解決へ向けての方向性を探ることを目的としている。本講では社会病理学の発達過程をその社会的背景の解明とともに論じ、さらに代表的な社会病理学理論を新しい視点から見直す。そして改めて社会病理とは何か、病理判定の基準とは、という基本的な問題を検討していく。

[講義計画]
1．社会病理学とは何か
2．社会病理学の分野
3．社会病理学研究の系譜
　ヨーロッパにおける社会病理学研究
　アメリカにおける社会病理学研究
　日本における社会病理学研究
4．社会病理学の諸理論
　社会不適応論、疎外論、文化遅滞論、社会解体論、アノミー論
　逸脱行動論、ラベリング論など
5．社会病理の判定基準

[成績評価の方法]
筆記試験によって評価する

[参考文献]
その都度、紹介する

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業社会学		春学期集中	4単位	上田　修

［講義概要・学習目標］

いわゆるバブル経済の崩壊とともに、金融関連産業を中心として日本企業に対する評価が著しく低下した。金融不安はいうまでもなく、リストラ、企業倒産による失業者の増大、さらにグローバルスタンダードのかけ声と共に、かつて日本的と称され、良好な国際的パフォーマンスの一因とみなされた制度、特徴に対する信頼は揺るぎ、評価の大幅な低下に結びついている。

しかし、戦後の時期に限っても、日本企業の雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変わってきた。この点を念頭におき、この授業では、日本企業が採用する雇用・人事・労務管理制度の特徴をアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、いかにこれらが変化してきたのかを明らかにする。同時に、これらの日本的特質とされる事柄が働く人々の生活や社会関係にどのような問題を投げかけているのかを考察する。

［講義計画］

Ⅰ　総論
　1　日本企業をめぐる評価とその変遷
　2　日本的特質と実態
Ⅱ　制度と政策の歴史的展開
　1　労務管理：年功制から能力主義へ
　2　人事管理：伝統的管理と能力主義
　3　雇用管理：終身雇用の動揺と多様化する雇用
　4　賃金：平等と格差
　5　労使関係と労働組合：企業別組合と協調的労使関係
Ⅲ　変わる労働世界
　1　労働市場の変容と労働政策の転換
　2　女性労働の増大：均等法と女性の労働世界
　3　ホワイトカラーの労働と管理
　4　企業社会：存続それとも動揺？

［成績評価の方法］

学期末試験の成績で評価する。

［教科書］

使用しない。ただし、各パートに入る時、講義内容の概略（レジュメ）を配布する。

［参考文献］

各講義概要（レジュメ）に添付する。

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業心理学		春学期集中	4単位	西川　一廉

［講義概要・学習目標］

いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず，勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は，働く人々とその家族に大きく影響する。

ソフト化・サービス化，情報化，コンピュータ化，共働き化，高齢化する社会の中での仕事，職場の人間関係，技術革新と能力開発，人事制度と処遇，雇用環境と中高年問題，職場のストレスとメンタルヘルス等々，職場生活は多様な問題を抱えている。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で，仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で，職場環境はどのように改善されなければならないのか。

当講義では，このようにダイナミックに変化する労働環境と，そこで働く人々について，心理学の立場から考える。

［講義計画］

勤労者の生きがい，労働時間構造の変化と労働，女性労働・家族・企業社会，働く意欲，人事管理と能力開発，職場の人間関係，産業ストレスとメンタルヘルスなど，いわゆる組織心理学的諸問題について，各種調査結果や今日的出来事を例示しながら，できるだけ具体的に講じる。

［成績評価の方法］

成績の評価は期末試験による。

［教科書］

ＮＩＰ研究会（編）　2000　『仕事とライフスタイルの心理学』　福村出版

［参考文献］

随時，指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
人間工学概論		通期	4単位	三戸　秀樹

［講義概要・学習目標］
人間と機械のかかわりは古い．この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め，今後の人間と機械の関係のあり方について言及する．近年の機械系，とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう，人間らしい“人間－機械”の関係が実現しつつある反面，労働場面では，非人間的な“人間－機械”の関係が観察される．この非人間的側面は，かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている．さらに，一部では産業ストレス時代ともいわれ，真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である．
単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく，働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら，「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を，人間工学的に考える姿勢を重視する．人間を中心にすえた視点から人間工学の基本を学びとって欲しい．

［講義計画］
<前　期>
(1)はじめに
人間工学の定義，労働態様の変化，
(2)人間特性
生体次元，感覚入力系，覚醒水準，生体リズム，反応特性，性差，疲労，蓄積性疲労，

<後　期>
(3)人間と機械
マン・マシン・インタフェース，頚肩腕障害，振動障害，VDT作業，テクノストレス，
(4)応用人間工学
立ち作業，障害者，二次的障害，高齢化，安全人間工学，交通科学，
(5)労働の快適化
労働の人間化，ゆとり，人間工学専門家資格，

［成績評価の方法］
テストとレポートを予定．

［教科書］
テキストは使用しない．
プリントを配布します．

［参考文献］
労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社)
三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社)
千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)
井上正康，倉恒弘彦，渡辺恭良(編)「疲労の科学」(講談社)

社会 ~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
労働経済論		春学期集中	4単位	小川　登

［講義概要・学習目標］
大学に学ぶ学生諸君は、卒業後、自らを労働力商品（生涯賃金は約3億円）として売り続け、それで生活する賃金労働者となる。しかし、現実には労働内容に見合った対価を確保することは難しい。3億円もする商品を、品質向上・努力なしで売ろうとすることには無理がある。経済活動の中における労働力の位置と役割、その価値決定の仕組みを知らずしては、良質な労働力商品の生産、維持管理、品質改良は果たせない。そのことを軽視するものは、自らの商品価値を破壊することになろう。
この授業では、前期に就職差別、反差別の経済学、労働組合の必要性等々に焦点を当てながらアメリカ合衆国の労働組合理論を紹介する。後期には、労働経済学全般について触れながら、特に熟練の形成について論じる。
労働力商品は、他の商品と比べて、「生きた赤いハートをもった商品」であること。その特殊性を理解することが、この授業における基礎目標である。

［講義計画］
Ⅰ．労働組合の思想
1．労働者と知識人と資本家
2．資本主義と差別と公正
3．労働組合観をめぐる思想対立
4．労働運動についての代表的理論
5．S．パールマンの労働運動論
6．ホクシーの労働組合主義論

Ⅱ．仕事の経済学
1．知的熟練
2．大企業労働者のキャリア
3．大卒ホワイトカラーの人材開発
4．報酬
5．長期雇用と解雇
6．現代の理論
7．中小企業労働者
8．女性労働者
9．高年労働者
10．日本方式の海外通用性
11．働く場での労働組合
12．マクロの経済学
13．基礎理論と段階論
14．日本の仕事方式の将来

［成績評価の方法］
春学期末試験。ただ、下記の2冊の教科書は必ず買うこと。

［教科書］
小川　登(著)『労働組合の思想』（日本評論社、1981年）。
小池 和男(著)『仕事の経済学』（東洋経済新報社、1999年）。

［参考文献］
野村 正実(著)『知的熟練論批判』(ミネルヴァ書房)。
小川　登(著)『労働経済論の基本問題』(ミネルヴァ書房)。
隅谷 三喜男(著)『労働経済論』(筑摩書房)。
島田 晴雄(著)『労働経済論』(岩波書店)。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会政策総論		秋学期集中	4単位	小川　登

[講義概要・学習目標]
社会政策の基本と戦後日本の社会政策史について学ぶ。
1. 現代社会政策の展開と分析視角
2. 資本主義の生成期・産業資本主義段階と社会政策
3. 独占資本主義段階と社会政策の発展
4. 労働組合政策と労使関係
5. 賃金政策と所得分配
6. 労働市場政策（特に雇用調整について）
7. 社会保障政策の展開
8. 労働者保護政策
9. 高齢化社会と労働・社会問題
10. 技術革新と労働問題
11. 女性労働の問題点
12. ホワイトカラー労働と社会政策
13. 現代日本の社会政策の展開と背景

[講義計画]
（前半）教科書の1.～7.について

（後半）教科書の8.～13.について

[成績評価の方法]
秋学期末試験。

[教科書]
石畑良太郎・佐野　稔（編）『現代の社会政策（第3版）』
有斐閣、１９９６年。

[参考文献]
講義の中で適時、指示する。

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
コミュニケーション論		秋学期集中	4単位	西川　一廉

[講義概要・学習目標]
人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団，社会を構成し，その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの，それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには，他者より先に，まず自分が自分をどのように認知しているかが問題である。その上で，他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが，身振り，手振りから始まって顔面表情や視線など，いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。沈黙が語るところは奥深い。さらに話すこともさることながら，聞くことの重要性を知らなければならない。
当講義では，個人，個人と個人，そして小集団までの対人コミュニケーションについて，心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論である。

[講義計画]
自己概念，自己開示と自己呈示，スピーキングとリスニング，対人相互作用，対人魅力と印象形成など，日常の具体的出来事を取り上げながら，また実習をまじえながら，コミュニケーションの基本について考える。
さらにバーバル／ノンバーバル・コミュニケーションや説得（態度変容），あるいは小集団における人間関係のダイナミックスについても考える。
あくまでも心理学に軸足をおいたコミュニケーション論あるいは人間関係論である。

[成績評価の方法]
成績の評価は期末試験による。

[教科書]
追って指示する。

[参考文献]
随時，指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
マス・コミュニケーション論Ⅰ		春学期集中	4単位	中村秀之

[講義概要・学習目標]

映像を中心とするマス・コミュニケーション論の入門コースである。

１９世紀前半における２つの新技術――写真と動画それぞれの発明から、２０世紀における印刷媒体における写真利用、映画、テレビ、さらにディジタル映像へと至る映像メディア／映像文化の歴史的発展をたどり、そこにマス・コミュニケーション／マス・メディアの基本的な諸問題の解説を絡ませながら現代の文化と社会を立体的に把握すること、これが本講義の目的である。

注意！

映像を中心としてマス・メディア／マス・コミュニケーションの歴史と構造を考察するという授業の性格から、授業中にビデオなどの映像資料を視聴し、解説をくわえることも少なくない。出席点はカウントしないが、授業に参加せずに試験で好成績をあげることはむずかしいだろう。

[講義計画]

以下のような内容・順序で講義を行う予定。

マス・コミュニケーション／マス・メディア研究とは何か？
映像とは何か？　：映像は本当に「メディア」といえるのか？
１９世紀における現代視覚文化の誕生　：写真と動画
「複製技術時代」の幕開け　：印刷媒体における写真利用
「映画」の誕生と発展　：見世物／芸術／情報メディア…？
総力戦体制と映像の「メディア」化　：戦争は映像を（どのように）変えたか？
「テレビ」、この知られざるもの
ディジタル映像の諸問題、など……

[成績評価の方法]

学期末の筆記試験によって評価する。

[教科書]

プリントを授業時に配布する。

[参考文献]

授業中に適宜指示するが、手始めに下記の図書を推薦しておく。

佐藤卓己（著）『現代メディア史』（岩波書店、1998年）
総力戦体制がマス・メディアを形成してきたという明確な視点から、主要国における各種メディアの発展を比較して論じている。年表・索引・文献案内も充実している。

飯沢耕太郎（著）『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書、1996年）
北野圭介（著）『ハリウッド百年史講義』（平凡社新書、2001年）
桜井哲夫（著）『TV　魔法のメディア』（ちくま新書、1994年）
上記３点は各メディアの歴史についての手軽な入門書として役に立つ。

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
マス・コミュニケーション論Ⅱ		秋学期集中	4単位	津金澤聡廣

[講義概要・学習目標]

我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、それらの情報摂取をとおして、いわばその時代の“常識”や社会風俗を吸収している事が多いが、そもそも、マス・コミュニケーションとは何なのか、マスメディアは我々の生活にとってどんな社会的役割を果たしているのか、を改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションを媒介するマス・メディアのあり方はこれでよいのか、何が問題なのかを、共に考え、検討したいと思う。

[講義計画]

次の各領域について概説を行う。

1. ジャーナリズム、マス・メディア、マス・コミュニケーションの定義
2. テレビ批判の系譜
3. マス・メディアをめぐる法的諸問題
4. 新聞倫理綱領と新聞編集に関する法規
5. 放送法の諸問題
6. マス・メディアをめぐる社会心理の問題化
7. 「高度情報化」現象の進展とマス・メディア
8. 現代社会におけるマス・メディアと日常の生活文化
9. 「インターネット・ケータイ」時代が意味するもの

[成績評価の方法]

平常点（レポート提出等）と学期末試験による総合評価。

[教科書]

津金澤聡廣・田宮武　著
『テレビ放送への提言』
ミネルヴァ書房、１９９９年

[参考文献]

その都度指示する。（文献多数）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本文化論 （旧日本文化研究（文学））		秋学期集中	４単位	深　澤　徹

［講義概要・学習目標］

日本人が自ら日本の文化について問うとは、どういう営みなのか。日本人は、日々日本の文化の中で暮らしている。つまり日本文化は、私たち日本人にとっては空気みたいな存在で、普段は意識もしないし、見えもしない。それについて論ずるということは、その見えないものを見えるようにし、意識していないもの意識化する営みである。言い換えれば、自らの姿を「鏡」に写して、自らの「自画像」を描く試みである。ではその「鏡」とはなにか。それをどこからもってくるのか。そうした原理的な問題を、過去に書かれた代表的な「日本文化論」のテキストを題材にしながら、考えていく。

［講義計画］

第１講：日本文化論の四つのマトリクス
第２講：自己を映す「鏡」としてのオリエンタリズム
第３講：日本文化論としてのアニメ「もののけ姫」
第４講：近代「国民（民族）国家」の成り立ちとその展開
第５講：中国学としての朱子学と、その反逆者たちの群
第６講：未だない国家を夢想した「国学」たちの営み
第７講：ルースベネディクト『菊と刀』のもたらした功罪

［成績評価の方法］

出席状況、及び教場試験を２回行って、総合的に評価する。

［教科書］

特に定めない。

［参考文献］

加藤典洋『日本人の自画像』（岩波書店）
南博『日本人論』（岩波書店）

社会～02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
キリスト教学 （旧キリスト教概論）		秋学期集中	４単位	滝　澤　武　人

［講義概要・学習目標］

「新約聖書」には２７冊のさまざまな文書が含まれています。それらはいずれも人類全体の大いなる知的遺産であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教・芸術などに対して新鮮な光を投げかけています。今年度のこの講義の目標は、「新約聖書」の中の「マルコ福音書」を読むことにあります。
「福音書」とはいわば一つの「文学」（ノンフィクション、ドキュメンタリー、評伝）であり、その著者は「作家」「編集者」と言えます。したがって、そこにはきわめて特色ある独自の思想と断固たる主張とが存在しています。そして、それらを明らかにするためには、文学や思想などの研究一般に用いられている方法を土台としなければなりません。真面目な学生諸君の主体的な受講を期待しています。もちろん、「信仰」の有無などには全く関係がなく、誰でも自由に受講することができます。

［講義計画］

「マルコ福音書」を最初から読みすすめながら、次のようないくつかのテーマを論ずる予定です。

1　イエスに従う
2　弟子批判
3　民衆
4　ユダヤ教批判
5　人間主義・世界主義
6　神の国
7　福音
8　終末
9　十字架刑
10　復活
11　誕生

［成績評価の方法］

試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価します。

［教科書］

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
（自分でテキストを読むことが中心ですので、できれば旧約聖書をも含んだ『聖書』を準備して、毎時間必ず持参して下さい。）

［参考文献］

滝澤武人『マルコの世界』（日本キリスト教団出版局）
〃　『福音書作家マルコの思想』（新教出版社）
〃　『人間イエス』（講談社現代新書）
田川建三『原始キリスト教史の一断面』（勁草書房）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
環境問題概論		春学期集中	4単位	巖　圭介

[講義概要・学習目標]

環境問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、それらは地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることを認識し、その解決には日常生活における環境問題への意識関心と地域性を踏まえた国際協力が必要であることなどについて考察する。

[講義計画]

Ⅰ．はじめに
- 環境問題の地域性と多様性
- 産業革命・近代化・工業化・都市化と環境問題

Ⅱ．地球規模での環境問題
- 破壊されつつある地球生態系
- 酸性雨
- オゾン層減少
- 地球温暖化

Ⅲ．大陸規模・国レベルでの環境問題
- 砂漠化する大地
- 人口爆発と食料難

Ⅳ．地域レベルでの環境問題
- 地域生態系での物質循環
- DDT・PCB・環境ホルモンの影響
- 地下水・河川・湖沼・海洋の汚染

Ⅴ．日常生活圏における環境問題
- ゴミ問題とダイオキシン

Ⅵ．環境問題と私達
- 私達の生活のあり方と環境問題解決への努力
- 環境問題解決への国際的取り組み

[成績評価の方法]

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）と期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）。

[参考文献]

遠山益　『人間環境学』　裳華房　2001

[教科書]

とくになし

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
科学思想史		春学期集中	4単位	松永　俊男

[講義概要・学習目標]

科学とキリスト教の関係について講義する。

１７世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ところが、１９世紀に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。

講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教が対立すると思われているのかについて考察する。

[講義計画]

前半
1．宇宙観の変遷
2．コペルニクスの信仰と科学
3．ガリレオの信仰と科学
4．ニュートンの信仰と科学
5．イギリス自然神学の成立

後半
1．ビクトリア朝の信仰と科学
2．化石の変遷の解釈と教会
3．進化論とキリスト教
4．科学と宗教の闘争史観の成立
5．科学と宗教の闘争史観の否定

[成績評価の方法]

原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。これが一定の水準に達しなければ、出席率が良くても不合格とする。

[参考文献]

松永俊男（著）『ダーウィンの時代－科学と宗教』（名古屋大学出版会）

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学特講（統計解析法入門）		春学期	２単位	木下　栄二

［講義概要・学習目標］
本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。主要な習得課題は、正規分布に対する理解、変数という考え方、量的変数と質的変数の区分、２変数間の関連の見方、そして３変数以上の関連をみるための基礎知識などである。
授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者、あるいは履修を強く希望する者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピューターも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

［講義計画］
（１）基本統計量
（２）正規分布
（３）量的変数と質的変数
（４）量的変数と量的変数との関連（相関係数）
（５）質的変数と量的変数との関連①（Ｔ検定）
（６）質的変数と量的変数との関連②（Ｆ検定）
（７）質的変数と質的変数との関連（Ｘ２検定）
（８）エラボレーション（第３変数の導入）
（９）多変量解析法の概観

［成績評価の方法］
学期末試験60%、小テスト20%、授業態度20%

［教科書］
特に指定せず。

［参考文献］
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書
安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書
Ｐ・Ｇ・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武（編著）
『社会調査へのアプローチ　論理と方法』ミネルヴァ書房

社会
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
現代文化特講 花月雪と漂泊（旅）		春学期集中	４単位	出　原　博　明

［講義概要・学習目標］
花時鳥月雪に代表される日本人の美意識と漂泊という思想を現代文化の中に探ります。これを最も顕著に表わしているのが俳句芸術なので、このアートを主な手がかりとします。
芭蕉から現代の第一線で活躍している俳人に至るまでを（漂泊の系譜をも含めて）辿り、この伝統芸術がいかに新しく甦り続けてきたかを明らかにし、それの現代に於ける意味を考えます。現在、女性と若者を巻き込んで空前の俳句ブームとなり、世界規模の国際化も進んでいるということとその問題点。この日本のアートと欧米の文学・文化との関係などについても。
俳句は四季・自然（含人事）を諷詠する詩ですから、これを勉強するうちに、私達人間もまた自然の一部であるということを、観念的に知るというのではなくて、しみじみ実感するようになります。そして、このかけがえのない大切な自然を護ろうという気持になってもらえたら嬉しい。この講義にはそんな願いも籠められています。
「青梅雨や飛火野を鹿渡りゆく」「朝月を廻りてよりの帰雁かな」「森羅万象涸滝の音ばかり」（博明）

［講義計画］
芭蕉から現代の第一線で活躍している俳人に至るまでの作品を、作者の生き方をも含めて、味わい楽しみます。（小中学生、高校生、大学生、外国人などの作品も紹介します。欧米人が作る所謂haikuというものも。）俳句の本質とされている詩性、抒情、諧謔、おかしみ、挨拶、自然への存問、などについて勉強します。時には、これと姉妹関係にあるアート、短歌や詩も取り上げます。西行や芭蕉から現代に続く漂泊という生き方の思想とその系譜を辿ります。
俳句の国際化が盛んですが、これの外国での受容に際しての色々の問題点について比較文化的観点から考えます。（俳句がこれまで外国の文学・文化にどのように影響を及ぼしてきたか、ということについても勉強します。）
現在の空前の俳句ブームを冷静な目で分析してその実相に迫ります。現代文化の中での俳句芸術の存在意義について多角度から考えます。
受講生たちは、できるだけ直に自然に触れて欲しい。
補助的にビデオも利用します。

［成績評価の方法］
授業参加の積極度と一回のテスト

［教科書］
新版俳句歳時記（金子兜太、桂信子他監修、出版社：雄山閣）

［参考文献］芭蕉の山河（加藤楸邨）、芭蕉の誘惑（嵐山光三郎）、昭和の名句集１００冊（岡田日郎他編）、進むべき俳句の道（高濱虚子）、女流俳句集成（黒田杏子他編）、俳句からHAIKUへ（佐藤和夫）、HAIKU(R.H.Blyth)、漂泊の俳人達（金子兜太）、現代俳句観賞（長谷川櫂編著）、俳句のゆたかさ（森澄雄）日本の伝統文化としての俳句と英米の詩（出原博明）、その他は教室で指示。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	０１	秋学期集中	２単位	石田　易司
	０２	秋学期集中	２単位	岡井　哲明
	０３	秋学期集中	２単位	松端　克文
	０４	秋学期集中	２単位	安原　佳子
	０５	秋学期集中	２単位	山本　　晃
	０６	秋学期集中	２単位	田中　　彰
	０７	秋学期集中	２単位	淡野　勝也

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2　「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要となる資質・能力技術を習得する。
3　職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

［講義計画］

1　実習オリエンテーション
2　視聴覚学習
3　社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話
4　現場体験学習
5　見学実習
6　見学実習記録に基づくレポートの作成
7　全体総括

［成績評価の方法］

・出席重視
・レポート等で総合的評価

［参考文献］

［教科書］

授業時指定する。

福祉
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉原論		春学期 集　中	４単位	松本　眞一

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
2　社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
3　社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
4　社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
5　社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
6　社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
7　社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

［講義計画］

1　現代社会と社会福祉
　1）社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2　社会福祉対象の把握方法
3　社会福祉援助の具体的な形態と方法
4　社会福祉援助活動における専門性と倫理
　1）専門性と専門職の内容
　2）職業観及び勤労観
　3）保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
　4）社会福祉援助活動と倫理
5　社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
6　社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
　1）社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
　2）社会福祉の実施体制
　3）社会福祉の財政と費用負担
　4）社会保障制度
7　社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向

［成績評価の方法］

春学期集中につき、春学期終了時点で定期試験を実施して成績評価を行う。また、出席点も加味される。

［参考文献］

福祉士養成講座編集委員会（編）
『社会福祉士養成講座　第１巻　社会福祉原論』（中央法規出版）

［教科書］

松本　眞一（編著）『現代社会福祉論』（ミネルヴァ書房　１９９８年刊）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉援助技術論Ⅰ ※ 第２年次の「社会福祉援助技術論Ⅱ」の双方を履修して、「社会福祉援助技術論（８単位）」認定。		通　期	——	〈春〉小西　加保留 〈秋〉石田　易司

［講義概要・学習目標］

この授業を２年間継続して履修し、以下の目標を達成する。

1．基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
2．人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
3．福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
4．社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
5．社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
6．社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

［講義計画］

1．社会福祉サービスと援助活動の関係
2．福祉専門職と専門援助技術の関係
3．専門援助技術の歴史的展開
4．社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
　1）社会福祉援助活動の目的と価値
　2）社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む）
　3）社会福祉援助活動の展開過程
　　①援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
　　②援助計画の作成
　　③援助活動の実施
　　④援助活動の評価
　4）社会福祉援助活動の共通課題
　　①契約・介入・課題の意義と方法
　　②面接の意義と方法
　　③記録の意義と方法
　　④評価の意義と方法
　　⑤専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法
　　⑥個別事象の継続的援助（ケースマネジメント）の意義と方法
5．専門援助技術の体系及び内容
　1）直接援助技術
　　①個別援助技術（ケースワーク）
　　②集団援助技術（グループワーク）
　2）間接援助技術
　　①地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法
　　　イ　地域援助技術の概念と基本的性格
　　　ロ　地域社会の組織化
　　　ハ　地域援助技術
　　　ニ　社会活動法
　　②社会福祉調査法の理論と技術
　　　イ　社会福祉調査の基本的性格と類型
　　　ロ　統計調査法における調査技術
　　　ハ　事例調査における調査技術
　　③社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術
　3）その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
6．社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7．専門援助技術と倫理
8．専門援助技術の統合化とチームにおける対応
9．専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

［成績評価の方法］

出席状況、レポート、学期末試験等による

［参考文献］

〈春〉大塚達雄他編著『ソーシャル・ケースワーク論　社会福祉実践の基礎』ミネルヴァ書房
　バイスティック著『ケースワークの原則』誠信書房
〈秋〉『新しいグループワーク』（YMC同盟）
　『はじめて学グループワーク』（ミネルヴァ書房）

［教科書］

〈春〉福祉士養成講座編集委員会『社会福祉援助技術論』中央法規
〈秋〉『さかさまの星座』（オモドック）03－3371－2204に直接電話してください。
　Camping for all（エルピス社）

福祉
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
医学一般		秋学期集中	４単位	郭　麗月

［講義概要・学習目標］

1　人体の基本的な構造や機能について理解させる。
2　臨床医学の各分野の概要について理解させる。
3　医学的リハビリテーションの概要について理解させる。
4　現代社会の代表的な疾患について理解させる。
5　公衆衛生の概要を理解させる。
6　保健医療対策の概要を理解させる。
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
8　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［講義計画］

1　人体の構造・機能
2　一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
3　医学的リハビリテーションの概要
4　現代社会と疾病
　1）がん、生活習慣病
　2）各種感染症
　3）神経・精神疾患
　4）先天性疾患
　5）難病
　6）その他
5　公衆衛生の現状
　1）人口動態
　2）疾病と受療状況
　3）医療関係者
　4）医療施設
6　保健医療対策の現状
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職
　1）医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
　2）保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

［成績評価の方法］

レポート、定期試験の成績で評価する。

［参考文献］

適時紹介する。

［教科書］

福祉士養成講座編集委員会編
社会福祉士養成講座１３「医学一般」（中央法規）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
老人福祉論		秋学期 集　中	４単位	坪山　孝

［講義概要・学習目標］

1　老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。
3　老人の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解させる。
5　民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。
6　老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解させる。
8　老人に対する相談援助活動について理解させる。

［成績評価の方法］

授業時に課すレポート及び試験によって成績評価を行う。

［教科書］

福祉士養成講座編集委員会編
『社会福祉士養成講座　第２巻　老人福祉論』（中央法規出版）

［参考文献］

『国民の福祉の動向』他に随時、講義中に紹介する。

［講義計画］

1　高齢社会と老人
　1）老化と老人
　2）家族と老人
　3）社会と老人
2　現代社会と老人福祉
　1）老人福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
　1）老人福祉法
　2）介護保険法
　3）老人保健法及びその他の関連法規
5　老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
　1）在宅サービス
　2）施設サービス
6　民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
7　老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方
8　老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
　1）地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応）
　2）福祉用具
9　老人に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

福祉
～02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
障害者福祉論		春学期 集　中	４単位	北野　誠一

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における障害の理念と障害者の実態を理解させるとともに、障害者福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における障害者福祉の理念と意義について理解させる。
3　障害者の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　障害者福祉に関するの法とサービスの体系について理解させる。
5　民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解させる。
6　障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　障害者に対する相談援助活動について理解させる。

［成績評価の方法］

レポート及び試験

［教科書］

定藤、佐藤、北野　編著『現代の障害者福祉』（有斐閣）

［参考文献］

定藤、岡本、北野　編著『自立生活の思想と展望』（ミネルヴァ書房）
定藤、中西、北野　編著『障害者の自立生活センター』（朝日新聞厚生文化事業団）
総理府　編『障害者白書』（平成１２年版）

［講義計画］

1　現代社会と障害及び障害者
　1）障害の概念
　2）家族と障害者
　3）社会と障害者
2　現代社会と障害者福祉
　1）障害者福祉理念の発達
　　①リハビリテーション
　　②ノーマライゼーション
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　障害者の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　障害者福祉に関するの法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
　1）障害者基本法とリハビリテーション体系
　2）障害別福祉サービスの体系と内容
　　①障害児
　　②身体障害者
　　③知的障害者
　　④精神障害者
　3）関連法による施策
　　①保健・医療
　　②教育
　　③雇用・就労
　　④年金、手当及び経済的負担の軽減
　　⑤住宅・生活環境（バリアフリーへの対応）
5　民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状
　1）民間活動
　2）民間サービス
6　障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方
7　障害者に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
児童福祉論		春学期 集　中	4単位	松本　眞一

[講義概要・学習目標]

1　現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。
3　児童の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。
5　民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。
6　児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。
8　児童に対する相談援助活動について理解させる。

[成績評価の方法]

春学期集中につき、春学期終了時点で定期試験を実施して成績評価を行う。また、出席点も加味される。

[教科書]

松本　眞一（著）『児童福祉論』相川書房（1995年刊、1999年改訂）

[参考文献]

福祉士養成講座編集委員会（編）
『社会福祉士養成講座　第4巻　児童福祉論』（中央法規出版）

[講義計画]

1　現代社会と児童
　1）人間の成長・発達と児童
　2）家族と児童
　3）社会と児童
2　現代社会と児童福祉
　1）児童福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
　4）児童の権利及び児童虐待
3　児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
　1）児童福祉法
　2）母子及び寡婦福祉法
　3）母子保健法
　4）その他関連法規
5　児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
　1）在宅サービス
　2）施設サービス
6　民間サービスの役割と意義及びその現状
7　児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
　1）地域及び住環境の整備
　2）福祉用具
8　児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方
9　児童に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

福祉
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
精神医学		通　期	4単位	岡田　章

[講義概要・学習目標]

1　精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
2　脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
3　精神医学の概念について理解させる。
4　精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
5　代表的な精神障害について理解させる。
6　治療の概要について理解させる。
7　病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

[成績評価の方法]

春学期　レポート
秋学期　試験

[教科書]

『改訂　精神保健福祉養成セミナー　精神医学　第1巻』
（へるす出版）

[講義計画]

1　精神医学、精神医療の歴史
2　脳および神経の生理・解剖
3　精神医学の概念
　1）精神医学の概念
　2）精神障害の成因と分類
4　診断法
　1）診断の手順と方法
　2）精神症状と状態像
　3）心理検査と身体的検査
5　代表的な精神障害
　1）症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
　2）精神作用物質使用による精神および行動の障害
　3）精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害
　4）気分（感情）障害
　5）神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
　6）生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
　7）成人の人格および行動の障害
　8）精神遅滞
　9）心理的発達の障害
　10）小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
　11）神経系の疾患（てんかんを含む）
6　治療法
　1）身体的療法
　　①薬物療法とその副作用
　　②電気ショック療法
　2）精神療法
　3）環境・社会療法
　4）精神科リハビリテーション
7　病院精神医療および地域精神医療
　1）病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
　2）精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
　3）地域精神医療

[参考文献]

ＩＣＤ－10『精神および行動の障害』（医学書院）
ＤＳＭ－Ⅳ『精神疾患の分類と診断の手引き』（医学書院）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
精神保健福祉論		春学期集中	４単位	栄　セツコ

［講義概要・学習目標］

1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
2 精神障害者の人権について理解させる。
3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

［成績評価の方法］

出席日数、レポート等で理解度を評価する。
必要に応じ筆記試験を行い、総合的に評価する。

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会（編）
『精神保健福祉論』　（へるす出版）

［参考文献］

成清美治、加納光子（編）『精神保健福祉概論』（学文社）

［講義計画］

1 障害者福祉の理念と意義
　1）障害者福祉の理念
　　①障害者福祉の発達
　　②ノーマライゼーション
　　③リハビリテーション
　　④生活の質（ＱＯＬ）
　　⑤生活支援
　2）障害及び障害者
　　①障害の概念
　　②障害分類（国際障害分類を含む）
　　③精神障害の特性
　3）障害者福祉の基本施策
　　①障害者基本法
　　②障害者プラン
　4）現代社会と精神障害者
　　①精神障害者の概念
　　②精神障害者と家族
　　③精神障害者と地域社会
　　④精神障害者のノーマライゼーション
2 精神障害者の人権
　1）精神障害者の権利擁護
　2）精神医療における権利擁護
　3）インフォームドコンセント
　4）地域社会における精神障害者の人権
3 精神保健福祉士の理念と意義
　1）精神保健福祉の歴史と理念
　2）精神保健福祉士の意義
　3）精神保健福祉士の対象
　4）精神保健福祉士の専門性と倫理
4 精神障害者に対する相談援助活動
　1）精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
　2）精神障害者の主体性の尊重
　3）相談援助活動の方法
　　①医療施設における相談援助活動
　　②社会復帰施設等における相談援助活動
　　③地域社会における相談援助活動
　4）相談援助活動の事例
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
　1）精神保健福祉法の意義と内容
　2）精神保健福祉士法の意義と内容
　3）関連法について
6 精神保健福祉施策の概要
　1）精神保健福祉に関する行政組織
　2）精神保健福祉に係る公的負担制度（公費負担医療等）
　3）精神保健福祉施策の課題
　　①精神障害者福祉対策
　　②社会復帰対策
　4）精神保健福祉における社会資源
　　①精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
　　②社会資源
7 精神保健福祉の関連施策
　1）雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
　2）所得保障
　3）経済負担の軽減
　4）生活環境の改善

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
精神保健福祉援助技術総論		通期	４単位	辻井誠人

［講義概要・学習目標］

○精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動を体系的に理解する。
○精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。
○精神保健福祉士が専門技術を用いる具体的事例を取り上げ、理論的に検証する。

［講義計画］

1 精神保健福祉施策の概要について
2 医療機関、社会復帰施設、公的相談機関などにおける援助活動
3 精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職
　価値及び倫理
　専門技術の体系
　専門知識
4 精神保健福祉士と専門技術の展開過程
　各展開過程における実践例
　各所属機関における実践例

［成績評価の方法］

期末試験の成績を中心に評価する。レポートの提出を求めた場合はその評価も含める。出席や授業態度などは期末試験に加算して評価する。

［教科書］

住友雄資・長崎和則・金子努・辻井誠人編『（仮題）精神保健福祉実践ハンドブック』２００２年２月発刊予定　日総研出版

［参考文献］

仲村優一監修『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』１９９９年中央法規出版
岡村正幸、川田誉音編『個別援助の方法論』１９９８年株式会社みらい
その他講義で随時紹介

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
障害者スポーツ論		春学期集中	４単位	長谷川　修一郎

[講義概要・学習目標]

ストーク・マンデビル病院国立脊髄損傷センターの所長ルドイッヒ・グットマン博士は1948年にはグッドマン博士の指導で、両下肢マヒ者のための競技会が広かれた。このスポーツ大会が、ストーク・マンデビル競技として一般に知られるようになった。1952年には国際的な両下肢マヒ者スポーツ競技会として発展した。この競技会は,1960年に開催されたローマ・オリンピック大会の開催を機会にオリンピック終了に続いて、同じ会場でパラリンピック大会として開催された。次は1964年東京オリンピックであり終了の後に第13回パラリンピックを開催した。これまで日本の身体障害者には、スポーツ文化を享受する機会がなく体を動かす楽しみ・健康・体力を獲得するということがなかった。その後、全国身体障害者スポーツ大会が国民体育大会終了後、ストーク・マンデビル競技流に行なわれている。今年で37回を高知県で開催された。

また、障害者スポーツ競技団体は、日本ろう者スポーツ協会、日本身体障害者スキー協会、日本車椅子バスケットボール連盟等、合計36競技団体があり、準登録団体は日本脳性麻痺7人制サッカー協会、日本障害者ダーツ連盟等が活動している。今後、多用なスポーツが出てくるであろう。

障害者スポーツの国際組織①1978年国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会加盟36カ国(日本加盟②国際盲人スポーツ協会、加盟76カ国（日本加盟）他、発展するであろう

[講義計画]

第１章日本における身体障害者スポーツの歴史

１、各都道府県等に身体障害者スポーツ大会の開催状況

２、パラリンピック東京大会

３、全国身体障害者スポーツ大会の推移

４、国内種目別競技団体

５、国際競技大会参加

第２章国際障害者スポーツ団体

１、障害者スポーツの国際組織

２、最近における身体障害者スポーツ国際組織

第３章国内における情勢

１、ジャパン・パラリンピック大会の開催

２、全国身体障害者スポーツ大会

３、その他の大会

４、身体障害者スポーツの国際化への対応

５、重度身体障害者のスポーツレクリエーションへの参加

第４章身体障害者スポーツ各種競技大会の概要

1. 国際競技大会の一覧
2. 国内競技大会の一覧
3. パラリンピック競技の概要
4. 冬季パラリンピック競技の概要
5. フェスピック競技の概要
6. 全国身体障害者スポーツ大会
7. ジャパン・パラリンピック
8. 車椅子バスケットボール選手権大会
9. 全国身体障害者アーチェリー選手権大会
10. 全国身体障害者スキー大会
11. 全日本視覚障害者柔道大会
12. 国際ストーク・マンデビル競技大会
13. 大分国際車いすマラソン大会

[成績評価の方法]

各章毎に小テストをおこない、最終授業時にテストをおこなう。

[教科書]

[参考文献]

福祉 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記 （旧簿記Ⅰ）	０３	秋学期集中	４単位	近　藤　健　司

［講義概要・学習目標］

企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通して、自らの財政状態と経営成績を把握するとともに、債権者・株主・税務当局などの利害関係者に必要な会計情報を伝達する。

本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として、初級の商業簿記を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。学生諸君も受身にならず、積極的に授業に参加してほしい。

［講義計画］

1　複式簿記の計算原理・・資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合
2　複式簿記の計算構造・・取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表、決算、
3　勘定科目各論・・現金・預金，仕入・売上、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形、その他の勘定、
4　決算・・決算整理、８桁精算表、損益計算書、貸借対照表
5　帳簿組織・・伝票式会計

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」　（中央経済社）

［参考文献］

新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定簿記ワークブック３級」　（中央経済社）

経営
~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記 （旧簿記Ⅰ）	０４	秋学期集中	４単位	清水　信匡

［講義概要］

初めて簿記・会計を学ぶ学生を対象として複式簿記に基づいた商業簿記の記帳手続きを説明することが本講義の主内容である。その過程で簿記・会計が現代の社会でどのような役立ちを担っているのかも説明する。さらに、会計学にはどのような領域があり、どのようなことが問題になっているかも説明する。なお、随時記帳練習を行う。

［学習目標］

①複式簿記の基礎概念の理解
（資産・負債・資本・収益・費用・利益概念の理解）

②複式簿記の基本的記帳方法の理解

③複式簿記の理解を通じて会計学のイメージをつかむ

［講義計画］

1　複式簿記の基礎概念　　2　貸借対照表　3　損益計算書
4　仕訳　5　転記　　6　試算表　7　６桁精算表
8　決算　　9　複式簿記の役立ち

10　現金・預金　11，12，13　三分法　14　有価証券
15　貸倒償却　16　原価償却　17，18　手形
19，20　８桁精算表　21，22　決算本手続き

［成績評価の方法］

試験等で評価する。

［教科書］

新井清光監修『新段階式ワークブック　3級商業簿記』税務経理協会

生協にて一括して購入し販売する。

［参考文献］

中田・徐・堀・全著『現代簿記論』中央経済社。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
商業簿記	05 06 07	春学期集中 春学期集中 春学期集中	4単位 4単位 4単位	河野　勉

［講義概要・学習目標］

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも１年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第３２条、商法第２８１条）。

その決算書は、利害関係者（経営者 、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）＆アカウンタビリテイの必要性が最重要視されている。
決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。

企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。
更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパレス化と帳簿との関連についても言及したい。

［講義計画］

<前半>

1．複式簿記の原理･･･(1)簿記の意義と目的
(2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）
(3)簿記の仕組み(取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目)

2．仕訳帳と元帳･･･ (1)仕訳と仕訳帳 (2)転記と元帳

3．試算表･･････････ (1)試算表の意味と種類 (2)試算表の貸借合計不一致

4．決算（その１）･･ (1)決算の意味と手続 (2)帳簿決算(英米式・大陸式)

<後半>

5．取引の記帳･･･････(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形)(5)有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引

6．決算（その２）･･･(1)決算整理の意味(2) 棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損(6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表

［成績評価の方法］

簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定３級に合格した場合は、成績評価に加算する。

［教科書］

中田信正・徐　竜　達・堀　友章・全　在紋（共著）
「現代簿記論」（中央経済社）

［参考文献］

新検定簿記講義３級商業簿記
加古　宜士
渡部　祐亘 編著　　中央経済社

検定簿記ワークブック３級商業簿記
加古　宜士
渡部　祐亘 編著　　中央経済社

経営
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
商業簿記	08 09 10	春学期集中 春学期集中 春学期集中	4単位 4単位 4単位	近藤健司

［講義概要・学習目標］

企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通して、自らの財政状態と経営成績を把握するとともに、債権者・株主・税務当局などの利害関係者に必要な会計情報を伝達する。
本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として、初級の商業簿記を講義する。
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。学生諸君も受身にならず、積極的に授業に参加してほしい。

［講義計画］

1　複式簿記の計算原理・・資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合
2　複式簿記の計算構造・・取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表、決算、
3　勘定科目各論・・現金・預金，仕入・売上、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形、その他の勘定、
4　決算・・決算整理、８桁精算表、損益計算書、貸借対照表
5　帳簿組織・・伝票式会計

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」　（中央経済社）

［参考文献］

新井清光・渡部裕亘（編著）「新検定簿記ワークブック３級」　（中央経済社）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
大学生活入門セミナー	０１	春学期	２単位	野原　康弘

[講義概要・学習目標]

「大学に入ったけれど、講義で教授が何を言っているのかわからない。教科書を読んでもわからない。課題のレポートが書けない。何か大学に行きづらい。」
　こんなことがないように、大学生活入門セミナーでは講義の受け方を学ぶことと桃山学院大学に慣れ親しむことを目的とします。具体的には，大学の講義やゼミで効果的に勉強するための基礎力をつけることを目的とします。特に、「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら，大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

学習目標
1　講義におけるノートの取り方を学ぶ
2　レジュメの作り方を学ぶ
3　発表・報告・討論の仕方を学ぶ

[講義計画]

第１回　講義の概略説明（２）
第２回　自己紹介
第３回　困ったときの相談と対策
第４回　教員とのコンタクトの取り方
第５回　Academic Adviserの制度について
第６回　将来の専攻について（１）
第７回　将来の専攻について（２）
第８回　将来の専攻について（３）
第９回　レジュメの作り方（３）
第10回　ノートの取り方（３）
第11回　報告の仕方（３）
第12回　研究の仕方（３）

講義順序を入れ替える場合があります。

[成績評価の方法]

レポート・ノート等の提出とその内容、出席状況、授業中の態度

[参考文献]

適宜指示する

[教科書]

適宜指示する

経営
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
大学生活入門セミナー	０２～１９	春学期	２単位	クラス・担当者については、目次で確認してください。

[講義概要・学習目標]

「大学に入ったけれど、講義で教授が何を言っているのかわからない。教科書を読んでもわからない。課題のレポートが書けない。何か大学に行きづらい。」
　こんなことがないように、大学生活入門セミナーでは講義の受け方を学ぶことと桃山学院大学に慣れ親しむことを目的とします。具体的には，大学の講義やゼミで効果的に勉強するための基礎力をつけることを目的とします。特に、「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら，大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

学習目標
1　講義におけるノートの取り方を学ぶ
2　レジュメの作り方を学ぶ
3　発表・報告・討論の仕方を学ぶ

[講義計画]（第１回でさらに詳しい説明があります。）

第１回　講義の概略説明と自己紹介
第２回　図書館の使い方
第３回　情報センターの使い方
第４回　レジュメの作り方（１）
第５回　レジュメの作り方（２）
第６回　ノートの取り方（１）
第７回　ノートの取り方（２）
第８回　報告の仕方（１）
第９回　報告の仕方（２）
第10回　研究の仕方（１）
第11回　研究の仕方（２）
第12回　経営学部のカリキュラム

講義順序を入れ替える場合があります。

[成績評価の方法]

レポート・ノート等の提出とその内容、出席状況、授業中の態度

[参考文献]

適宜指示する

[教科書]

適宜指示する

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学基礎	０１ ０２ ０３ ０４	春学期 春学期 秋学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	片岡　信之 片岡　信之 鬼塚　光政 鬼塚　光政

［講義概要・学習目標］
経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。
そこでこの講義では、経営学部で開設している諸科目のうち経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、それぞれの科目について大まかなイメージが持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいか、という点についても、ガイドします。
この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2セメスター）から自覚を持って、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）に進んでいけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

［成績評価の方法］
①期末テストの結果によるほか、
②講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうかを、期末にノート提出によってチェックします）、
③講義中に随時指示する提出レポートがきちんと書けているかどうか、
などによる総合評価とします。
概ね期末テスト結果5割、その他5割の比重で評価をします。

［教科書］
最初の時間にテキストを配付します。

［講義計画］
配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出て、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。
1. 経営学、商学とはどんな学問か―全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主内容）
2. 会社の仕組みはどのようになっているのかについての知識を学ぶ―企業論
3. 会社を運営するにあたって知っておかねばならない知識を学ぶ―経営管理論
4. ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいかについての知識を学ぶ―経営労務論
5. 会社ではどのようにしてモノを作っているかについての知識を学ぶ―生産管理論
6. 商品流通の仕組みと販売に関する一切の知識を学ぶ―流通論、マーケティング論
7. お金をどう集め・運用するかについての知識を学ぶ―経営財務論
8. 金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業についての知識を学ぶ―銀行論、保険論、証券論
9. 国際化時代の会社はどう変わってきているかについての知識を学ぶ―国際経営論、異文化間コミュニケーション論
10. 中小企業の直面する問題と起業家についての知識を学ぶ―中小企業論
11. 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についての知識を学ぶ―組織倫理学
12. 大学院レベルの高度な授業に挑戦しよう―環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
13. 現代版の読み・書き・そろばんの武器を身につけよう―実務英語、情報諸科目、情報収集能力、リーダーシップ能力、戦略作成能力
14. 就職対策・キャリア形成は入学時から始まっている―経営学部卒が有利な職業の紹介、学科目履修との関係づけ、就職課職員の話を聴く
15. 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

［参考文献］
●特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営情報基礎	０１ ０２ ０３ ０４	春学期 春学期 秋学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	佐々木　宏 佐々木　宏 牧野　丹奈子 牧野　丹奈子

［講義概要・学習目標］
経営学部における経営情報関連の講義は，以下の４つである。
・″情報技術″について学習する「経営情報技術論」
・″情報システム″について学習する「経営情報システム論」
・″情報化と組織″について学習する「情報化組織論」
・″情報利用と計画″について学習する「経営工学」

この講義は，上の４つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を数回ずつ学習する。また，上記の内容に加え、４つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。
この講義の目的は，経営管理や組織運営にとって，情報、コンピュータ・システム、ＩＴ（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が、大きな助けとなることを理解してもらうことである。

［成績評価の方法］
期末試験

［教科書］
プリント配付

［講義計画］
①オリエンテーション
②数学基礎
③「経営情報技術論」の基礎
④「経営情報システム論」の基礎
⑤「情報化組織論」の基礎
⑥「経営工学」の基礎
⑦まとめ

［参考文献］
必要に応じて指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
会計学基礎	０１ ０２ ０３ ０４	春学期 春学期 秋学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	小林　哲夫 小林　哲夫 徐　龍　達 徐　龍　達

［講義概要・学習目標］

〈講義概要〉
「会計」(accounting)は「企業の言語」(language of business)と言われる。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person)は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功(出世)もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話法を伝授する。

〈学習目標〉
企業の言語の基本的な会話力を身につけるため、以下を学習目標とする。
①資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
②企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
③企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
④経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

［講義計画］

テキストの目次は次の通りであるが、進行状況を勘案して講義する。

第１章　会計とは？
第２章　基本的な会計情報とは？
第３章　決算書の情報を分析するには？
第４章　税金はどのように計算するのか？
第５章　コストと会計情報とはどのように結びつくのか？
第６章　経営管理に会計情報をどう役立てるのか？
第７章　財務諸表は本当か？
第８章　決算書の内容や様式はどのように決まるのか？
第９章　会計は職業とどう結びつくのか？

［成績評価の方法］

授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および筆記試験の総合点で評価する。

［参考文献］

参考資料は適宜配布します。

［教科書］

中田信正・徐龍達・小林哲夫（共編著）
『（まなびの）入門会計学』（仮題）
中央経済社（2002年3月発売予定）

経営 ~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学総論	０１	春学期集中	４単位	野田俊範

［講義概要・学習目標］
本講義は、経営学を初めて学ぶ学生を主たる対象とする、いわば「経営学入門」である。本講義の主要な課題は、経営学の学問的な性格を明らかにすること、ならびに、その経営学が研究対象とする企業・経営の基本的原理を概説することである。
本講義は、以下のような学習目標をもっておこなわれる。
①経営学の全体像を体系的に把握すること。
②企業・経営の基本的原理を理解すること。
③現代社会において企業がもつ意義や課題について、各自が主体的に関心をもつこと。

［講義計画］
Ⅰ．経営学とは何か
　１．経営学の意義
　２．経営学の成立
　３．社会科学としての経営学
Ⅱ．企業とは何か
　１．企業の基本的特質
　２．企業の基本的形態
　３．株式会社の特質
　４．企業を支配するもの
Ⅲ．経営管理の基本問題
　１．経営管理の意義
　２．経営管理思想の展開
　３．経営組織の論理
　４．経営戦略の論理
Ⅳ．現代社会と企業経営
　１．現代社会における企業の意義と課題
　２．経営学の展望

［成績評価の方法］
学期末試験により評価する。

［参考文献］
奥田耕一編著『新時代の企業経営』同文舘　1998年。
万仲脩一・海道ノブチカ編著『利害関係の経営学』税務経理協会　1999年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

［教科書］
使用しない。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学総論	０２ ０３	春学期集中 春学期集中	４単位 ４単位	谷　口　照　三

［講義概要・学習目標］

経営学は、人間生活と密接に関係している、いわゆる企業を主たる対象に研究してきた。この企業の具体的なイメージとしては、「何々会社」を思い描けばよい。われわれが住むこの世界には、様々な会社があり、それらの会社が人間の生活に必要な様々な物やサービスを提供している。経営学は、人間の生活に必要な様々な物やサービスとは何か、またそのような物やサービスを提供するために必要で充分な条件や物事および考え方とは何かを明らかにすることをめざしている。しかし、その際、いくつかの点を考慮する必要があるが、とりわけ以下の２つの視座ないし態度が重要である。まず第１に、人間生活やそれに応答する企業の活動は、時代によって変化する面と変化しない面があるので、それらを峻別し、その上でそれらの関係を考えていかなければならない。企業の活動は、多くの人々の働きや社会的な制度および自然環境に支えられたり、それらに制約を受ける。そればかりでなく、企業の活動はこのような諸環境に大きな影響を与える。従って、次に考慮しなければならない点は、それらの諸環境と企業の関係を、「プラスの影響とマイナスの影響」の双方からとらえていく態度である。

本講義では、この様な２つの視座ないし態度の下に、経営学の基礎と概略、および経営学を学ぶことの意味が理解できるように、進めていきたい。受講生の皆さんの心の中に、経営学を学び、研究することへの新鮮な興味と輝かしい情熱が生まれることを期待している。

［講義計画］

1．生活を支える企業,
2．環境の変化と企業経営、
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義、
4．企業は誰が経営し、動かしているのか、
5．企業は何をめざして活動しているのか、
6．企業が利用できる経営資源には。どのようなものがあるか、
7．企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか、
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10．企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11．組企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12．企業はどのようにして人材を活用するのか
13．企業はどのようにして文化をはぐくむのか

［成績評価の方法］

不定期小テスト、リポートおよび春学期末試験の総合評価。

［教科書］

片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺　峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、２０００年。

［参考文献］

必要に応じて適宜指示する。

経営
~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営学総論	０４	秋学期集中	４単位	片　岡　信　之

［講義概要・学習目標］

この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。

したがって、本講義の目標もその点におかれることとなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするということです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。

経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。

ノートを必ず取ってください。この講義の目的の一つは、今後4年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を1年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい評価点として加味します。

［講義計画］

テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。

1．生活を支える企業
2．環境の変化と企業経営
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義
4．企業は誰が経営し、動かしているのか
5．企業は何を目指して活動しているのか
6．企業が利用できる経営資源には、ドのようなものがあるか
7．企業はどのようにして経営し、組織を作るのか
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10．企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11．企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12．企業はどのようにして人材を活用するのか
13．企業はどのようにして文化をはぐくむのか

［成績評価の方法］

①学年末テスト結果によるほか、②講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうか）、③講義中の小テストをきちんと書けているかどうか、などによる総合評価とします。

概ね学年末テスト結果7割、その他3割の比重で評価をします。

［教科書］

片岡信之・齋藤毅憲・高橋由明。渡辺峻『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、2000年9月刊、2500円

［参考文献］

●特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃からすき間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。つぎの何れかが、値段も手頃で良いでしょう。

1．経営学史学会編『経営学史事典』文眞堂、3000円（5月刊行予定）
2．吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
3．二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円

●経営学は様々な最新知識の総合という特徴があります。『現代用語の基礎知識』（自由国民社）『イミダス』（集英社）『智恵蔵』（朝日新聞社）のうちいずれかを手元に置いて、手当たり次第に読んで雑学をしてみてください。（いずれも3000円程度で各年版が出ています）。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営情報技術論 (旧情報システム概論)	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	中桐　大壽

［講義概要・学習目標］

情報社会では、情報技術を用いた様々なシステムの活用または開発が不可欠である。本講義では、ビジネスマン又はビジネスウーマン、社会人として必要な情報技術の基礎を習得させる。

［講義計画］

1．コンピュータの歴史
2．コンピュータによる情報表現
3．コンピュータのハードウェア構成
4．ソフトウェア：オペレーティング・システム、応用ソフトウェア
5．ソフトウェア開発法：開発手順、プログラミング、アルゴリズム
6．ファイルとデータベース
7．通信の仕組み
8．通信ネットワークシステム：ＬＡＮ、インタネット等
9．情報システムとセキュリティ
10．計測と制御：単体装置制御（フィードバック、フィードフォワード制御）、計算制御
11．小テスト（１～４）

［成績評価の方法］

総合評価（平常点、出席、小テスト、定期試験）

［教科書］

経営情報処理概論（井上義祐／小池俊隆編著），同文館，2,800円

［参考文献］

21世紀の経営システム（日本経営システム学会編），東方出版，3,800円

経営 ~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営情報技術論（旧情報システム概論）	０３ ０４	春学期集中 春学期集中	４単位 ４単位	村　山　　博

［講義概要・学習目標］

情報社会では、情報技術を用いた様々なシステムの活用または開発が不可欠である。本講義では、ビジネスマン又はビジネスウーマン、社会人として必要な情報技術の基礎を習得することを目的とする。

［講義計画］

1．コンピュータの歴史
2．コンピュータによる情報表現
3．コンピュータのハードウェア構成
4．ソフトウェア：オペレーティング・システム、応用ソフトウェア
5．ソフトウェア開発法：開発手順、プログラミング、アルゴリズム
6．ファイルとデータベース
7．通信の仕組み
8．通信ネットワークシステム：ＬＡＮ、インタネット等
9．情報システムとセキュリティ
１０．計測と制御：単体装置制御（フィードバック、フィードフォワード制御）、計算制御

［成績評価の方法］

出席状況、授業態度、期末試験により、総合的に判断して評価する。

［教科書］

『経営情報処理概論』<改訂版>同文舘
ISBN4-495-36052-3

［参考文献］

その都度指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
情報検索論 （旧経営情報学特講（情報検索論））		春学期集中	4単位	志保田務

［講義概要・学習目標］

「情報」は生産されてのち、収集、利用され、再生産されます。この「利用」おいて、関心分野内にどのような情報があるかを把握する行動を情報検索と言います。言い換えると「情報検索」は蓄積された情報の中から特定の属性を有する情報を選び出す行動、英語では、information retrieval、略してIRと表現します。情報検索の重要さはインターネットに代表されるような今日のネットワーク環境下にますます重要になっています。本講義ではこの「情報検索」について概略を把握し、受講者と議論の交換を行います。

特に書誌的検索に絞って検索法等を追究します。書誌的検索に関しては、先行の分野として図書館情報学があります。本講義では図書館情報学における達成効果を参考に進めます。図書館情報学では、図書館利用が土台となります。特に、図書館の所蔵目録、OPAC（Online Public Access Catalog）の利用、活用を重視します。こうした所蔵資料の検索から、文献検索に進み、索引の検索、キーワード検索等に至ります。そこにおいては、用語を安定する典拠ファイル、シソーラス等の理解、活用を進めます。

こうした統制語による検索以前に自由語、キーワード検索など非統制語による検索があることは、上記のとおりです。統制語による検索は面倒のように見えますが、再現率が高くかえって豊かな検索ができます。非統制語による検索は適合率は高いものの、そのコトバの同意語での検索はできず、再現率が低くなることとなります。こうしたことを、前半は論理中心に、後半は、実習的なところを取り入れて展開します。

講義は、当然のことながら、順を追って進むので、できる限り出席を続け、講義の脈略を把握してほしいと考えます。なお、ホームページ、電子メールを活用する予定ですので、修得、対応を怠らないよう望みます。

［講義計画］

序　「情報検索」概説
1．「情報」概説
2．「情報」の歴史
3　「情報」と現代
4　社会生活と情報活用
5　情報検索
6．情報検索の諸局面
7．書誌情報の理論構造
8．書誌情報の技術の概要
10．情報検索を取り巻く情報環境
11．情報検索実習概説
12．図書館における所蔵検索（OPAC利用）
13．書誌情報検索
14．情報検索の諸局面
15．情報検索の枠組み
16．書誌情報検索の実行
17．ネットワーク活用
18．インターネット活用
19．データベース利用（1）
20．データベース利用（2）
21．情報の再生産（自己作成）
22．まとめ、またはテスト

［成績評価の方法］

前半末およぼ後半末におけるペーパーテスト、課題提出にて評価します。

［参考文献］まずは教科書を2冊とも買い、読むこと。

［教科書］2冊とも教科書

志保田務，平井尊士，中崎修一編著『情報活用術』　学芸図書　2000
渡部満彦，山本順一，堀川照代著『情報メディアの活用』放送大学振興会　2000

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
株式会社会計 （旧簿記Ⅱ）		秋学期	2単位	近藤健司

［講義概要・学習目標］

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に授業を進める。

財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

［講義計画］

1、簿記一巡の取引と財務諸表
2、現金預金取引
3、有価証券取引
4、債権債務取引
5、手形取引
6、引当金取引
7、特殊商品売買取引
8、固定資産取引
9、株式会社会計
10、決算整理・財務諸表の作成
11、本支店会計・合併財務諸表の作成
12、帳簿組織・仕訳帳の分割・伝票式会計

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況を加味して、総合的に評価する。

［参考文献］

新井清光・渡部裕亘（編著）「検定簿記ワークブック　2級商業簿記」（中央経済社）

［教科書］

新井清光・渡部裕亘（編著）「検定簿記講義　2級商業簿記」　（中央経済社）
他に，プリントにより適宜補う。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
工業簿記 （旧簿記Ⅱ）		秋学期	2単位	近　藤　健　司

［講義概要・学習目標］

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。

原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

［講義計画］

1、工業簿記の構造
2、材料費・労務費・経費の計算
3、製造間接費計算
4、部門費計算
5、個別原価計算
6、総合原価計算
7、標準原価計算
8　直接原価計算
9、工場会計の独立

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

岡本　清・広本敏朗（編著）「検定簿記講義　2級工業簿記」　（中央経済社）
他に、プリントにより適宜補う。

［参考文献］

小林哲夫・伊藤　博（共著）「最新工業簿記」　（実教出版）
岡本　清・広本敏朗（編著）「検定簿記ワークブック　2級工業簿記」（中央経済社）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
コミュニケーション概論		春学期集中	4単位	遠　山　淳

［講義概要・学習目標］

コミュニケーションは生物の本能である。全生物がその機能を持つ。人間の行動・行為は複雑である。当然のことながら、人間を対象とするコミュニケーション研究も広範囲にわたり、学際的となる。

人類は、近年、コミュニケーション手段と機器のすさまじい発達を見た。情報は瞬時に世界を駆け巡り、国境を越え、文化を越え、個人の行動・行為に影響を与える。昨年アメリカで起きた「同時多発テロ事件」への反応はまさに現代的であり、その情報が与えた政治的、経済的、文化的影響の規模は地球の「狭さ」を実感させ、われわれに「地球村」の到来を実感させた。

氾濫する情報、うろたえる人間。主役は情報か、人間か。

［講義計画］

1．言語の獲得と発達過程
2．言語的コミュニケーション（1）：言語と思考様式
3．認知科学としてのコミュニケーション
4．言語的コミュニケーション（2）：言語と意味
5．動物のコミュニケーション
6．ノンバーバル・コミュニケーションの機能と理解
7．メッセージとは何か：解剖とルール
8．広告のコミュニケーション
9．「うわさ話」について
10．説得の技術
11．テレビ・ゲームのコミュニケーション
12．異文化コミュニケーション

［成績評価の方法］

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

［教科書］

橋元　良明編著『コミュニケーション学への招待』大修館書店、1997

［参考文献］

授業中に紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
実務英語 （旧商業英語）	01	春学期集中	4単位	三宅　亨

［講義概要・学習目標］

Globalizationの進む中で、外国人とのコミュニケーションが益々必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように我が国への訪問者への対応だけでなく、今では同僚として、あるいは仕事の上での付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また、商用での出張、旅行などの短期訪問・滞在や転勤などによる長期海外生活をおくる日本人が珍しくない時代になってきた。

この講義では、外国人とのビジネス（社交面も含める）を円滑に進める上で最小限必要とされる英語(English for business)を取り上げる。毎回多量の英文を素早く読み取り、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。また、受講者には積極的にTOEICを受験してもらいたい。

［講義計画］

テーマ

1．自己PR
2．新聞・雑誌の英語
3．説明書（マニュアル）・注意書きなどの読み方
4．海外生活に必要な英語
5．契約書・法律の英語
6．電子メール、手紙文
7．履歴書

なお、学期期間中の世界の動向に応じて、適宜、時事的なテーマを取り上げる予定である。

［成績評価の方法］

学期末定期試験は行わない。毎回の課題（英文）と出席、講義への参加度により評価する。（電子メールによる課題提出もある。）社会人になるための訓練の場でもあるから、遅刻・欠席に対しては厳しく対処する。正当な理由なくして5回以上休んだ学生は以後の授業参加をみとめない。

［教科書］

教材はできるだけ最新のものを取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、handoutを配布する。

［参考文献］

授業中に指示する。

経営 ~02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
実務英語 （旧商業英語）	02	秋学期集中	4単位	三宅　亨

［講義概要・学習目標］

この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、社交通信文や電子メールを含めて実社会で必要な実用英文を書くことに重点を置く。毎回、相当量の英文を書くという課題を与えるので、十分な予習をして授業に望むこと。受講者には積極的にTOEICを受験してもらいたい。

［講義計画］

基礎
1．ビジネスレターとは
2．社内メモ
3．電子メール
4．ビジネス通信文の本体

社交通信文
1．出張に係わる文
2．紹介・招待
3．祝賀と弔意
4．社内外への通知文
5．英文履歴書

貿易通信文
1．取引関係の創設
2．売買契約の成立
3．売買契約の履行

［成績評価の方法］

学期末定期試験は行わない。毎回の課題（英文）と出席、講義への参加度により評価する。（電子メールによる課題提出もある。）社会人になるための訓練の場でもあるから、遅刻・欠席に対しては厳しく対処する。正当な理由なくして5回以上休んだ学生は以後の授業参加をみとめない。

［教科書］

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂

［参考文献］

その都度指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
ドイツ文化論 （旧ヨーロッパ文化研究（ドイツ文化））		秋学期集中	４単位	高田　里惠子

［講義概要・学習目標］

この講義では、１８７１年のドイツ帝国成立から、１９４５年の第三帝国（ナチス・ドイツ）の終焉までの歴史を扱う。他のヨーロッパ諸国と比べ、国民国家としての統一が遅れたドイツでは、それだけ徹底的にナショナリズムによる国民統合を行なった。それが、最終的には、ナチス・ドイツへと繋がっていく歴史を考察する。その際、導きの手となるのが、学校制度・教育思想の変遷である。とりわけ１９００年前後のドイツ帝国の在り様が分析の中心となるだろう。そのために、今回は、この時期に書かれたいくつかの学校小説と戦争小説を取りあげ、また、それが近代日本にどのような影響を及ぼしたかを考察する。

［講義計画］

１．　学校制度から見るドイツ帝国の歴史
　　ドイツ帝国と少年教育
　　ヴィルヘルム時代の社会と性
　　教養市民層と思春期の誕生
２．　第一次世界大戦とドイツ
　　戦争と友情
　　教養市民層におけるナショナリズムの高揚
３．　学校とファシズム
　　ナチズムと男性同盟の思想
　　近代日本への影響

［成績評価の方法］

最後に期末試験を行なう。また状況によっては、理解度を見るために、レポートか小テストを課すこともありうる。試験やレポートでは、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

［教科書］

教科書は使用しない。

［参考文献］

木谷勤、望田幸男編著『ドイツ近代史　１８世紀から現代まで』（ミネルヴァ書房）
望田幸男・三宅正樹編『概説ドイツ史　現代ドイツの歴史的理解』（有斐閣）
野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』（講談社学術文庫）
竹内洋『日本の近代１２　学歴貴族の栄光と挫折』（中央公論新社）

経営～02

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
英語学概論	01	秋学期集中	4単位	Kevin R. Gregg（ケビン グレッグ）

[講義概要・学習目標]

「英語学」とは、英語を対象とする言語学、つまり言語の科学である。科学だからこそ、言語学の目的は、言語現象を記述したりするだけではなく、その現象を説明しようとすることである。

「英語学概論」だから、英語における諸現象の詳細な記述も説明もできないし、英語に関してきめ細かい、表面的なデータをたくさん与えるつもりも毛頭ない。むしろ英語の文や語彙の構造、音韻体系、などについての基盤となる概念のみを紹介し、把握してもらうこととする。

「英語学概論」だから、主に英語の現象について語る。が、日本語その他の言語のデータも与えて、宿題や試験の対象とすることもある。

本授業の目的は、単に英語に関する事実を山ほど覚えさせることでは決してない。それどころか、英語を人間言語の一例とし、言語学という科学の研究対象と、その研究方法を把握してもらうことである。言語に興味をもって英語を科学的な立場から勉強したい学生を対象とする授業なので、教職課程の学生にとっては、それほど役立つ授業になるとは思えない。

[講義計画]

1）科学としての言語学
2）統語論：（英語の）文の構造
3）形態論：（英語の）語彙の構造
4）音声学：（英語の）発音
5）音韻論：（英語の）調音の規則
6）意味論：文内や文間の意味関係
7）語用論：発話の解釈；文字どおりでない意味

[成績評価の方法]

小テストも年度末定期試験も行なう。従って年度末定期試験でうかっても単位がとれない可能性も十分ある。出席する義務は、もちろんないが、よく欠席したり、念入りにノートをとらなかったりすると、単位がとれる可能性は極めて低くなる。そして授業中私語をしたり眠ったりするような、マナーを知らない学生は、早速除籍される。

[教科書]

中島平三、『ファンダメンタル英語学』ひつじ書房、１９９５

[参考文献]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
英語学概論	02	秋学期集中	4単位	南條健助

[講義概要・学習目標]

英語学（English linguistics）とは、英語という個別言語を対象とした言語学（linguistics）である。この授業では、英語の中に見られる「言語の本質にかかわる普遍的な原理」と「英語という言語に特有の性質」をさぐりながら、「英語とは、どのような言語であるのか」を概観する。半年間で英語学研究のほぼ全領域を概説し、英語学の研究方法と最新の研究成果に関する基本的な知識を与える。

なお、日本語の母語話者が英語学を研究する場合には、母語の言語的直観を利用するという意味でも、言語の普遍性と個別性を明らかにするという意味でも、日本語との対照研究がきわめて重要であるから、授業では、できるだけ日英語の共通点と相違点を浮き彫りにするように心がけたい。

なお、テキストは用いるが、必ずしもテキストどおりに授業を進めるわけではなく、口述による講義が中心となるので、受講生諸君は話を聞きながら、各自でノートを取ることが求められる。

[講義計画]

1. 入門編
2. 音声学
3. 音韻論
4. 形態論
5. 生成統語論
6. 機能的構文論
7. 意味論
8. 語用論
9. 英語史

[成績評価の方法]

定期試験（60%）、提出課題（30%）、出席状況や授業態度（10%）を総合して評価する。なお、８回以上欠席した者には、定期試験の成績や提出課題の評価にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする受講生は即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

[教科書]

安藤貞雄・澤田治美（編）『英語学入門』
開拓社　2001年　（本体価格 2,400円）

[参考文献]

授業中に紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
英米文学概論	01	春学期集中	4単位	伊藤貞基

[講義概要・学習目標]

前半では、小説を読み、語る上で基本的に必要とされる概念や知識を修得する。後半では、その実践編として幾つかの短編を分析・味読する。

[講義計画]

<前半>
Fiction, Fact, and Truth/Fiction: Experience and Analysis/
The Spectrum of Fiction/Fictional Modes and Patterns/
Plot/Character/Meaning/Point of View: Perspective and Language/
Design: Juxtaposition and Repetition in the Structure of Fiction
<後半>
"Moonlight" by Guy de Maupassant/"Clay" by James Joyce/
"Theme of the Traitor and Hero" by J.L. Borges/
"Cat in the Rain" by Ernest Hemingway

[成績評価の方法]

平常点、定期試験時の筆記試験あるいはレポート。授業への出席を重視する。

[教科書]

Robert Scholes, *Elements of Fiction.* 英宝社

[参考文献]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
英米文学概論	02	春学期集中	4単位	中村祥子

[講義概要・学習目標]

この講義では、英米文学を学ぶ時の手引きとなるような概念を論じていきます。例えば優れた文学作品を読む時の感動はどこからくるのでしょうか。それは作者が読者に伝えようとするメッセージと深いかかわりがあります。この作者のメッセージを読者が正確に読み解くためには、最低限知っておかねばならない文学概念があるのです。よく文学はフィクションであると言われます。しかしfiction とはなんでしょう。どうしてfiction という「創り話」が、現実の様々な問題を鋭く描き出し、読むものに深い感動を与えることができるのでしょうか。また小説の登場人物や物語の筋といったものは、作者のメッセージとどうかかわってくるのでしょうか。

このようにこの講義では先ず、文学におけるfiction, mode, plot, character等々といった、文学理解のための基本的な概念を論じ、作者が文学作品に込めたメッセージを具体的に読み取っていくための読者の側の戦略を論じていきます。さらに後半の講義では、先に学んだ文学概念や戦略を駆使して、実際に文学作品を幾つか分析していきます。そうしてこの講義を通して、学生が文学作品を味わい、自らの批評眼をもつことができるようにしていきます。

[講義計画]

英文によるテキストElements of Fiction を使用します。左記の通り、講義の前半では文学理解のための基本概念を講じ、講義の後半では、その概念を使って具体的に応用問題として作品論を行います。

[成績評価の方法]

期末試験の成績、平常の成績の総合評価によります。平常の成績には、出席状況の他に、指示した読了文献（テキスト、プリントなどを含む）をどれだけ真面目に読んできたかも加味します。

[教科書]

Robert Scholes著 Elements of Fiction （英宝社）

[参考文献]

授業中に指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語表現文法 （旧英語の構造）		春学期集中	４単位	三　宅　　亨

［講義概要・学習目標］

言葉を用いて自分の表現したい内容（意味）を聞き手（読み手）に伝えるには、まず語彙を身につける必要がある。しかし、いくら語彙が増えても、その使い方を知らなければ、日常会話の決まり文句程度の片言の域を出ないことになる。いくつかの語を適切につなぎ正確に意味の伝わる文を作りだす能力（文法知識）が書かせない。文は単に語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解しなければ、文を読んだり、書いたり、聴き取ったり、話したりすることはできない。この講義では、英語でのコミュニケーションに求められる文構造を扱う統語論(syntax)を中心に、高校までに学習した英文法知識を現実に使われている英語と比べて整理し直し、英語が使えるようにするという実用面と、同時に伝統文法から生成文法・機能文法・語用論・談話分析など最新の言語理論面への橋渡しを試みる。これは、英語習得上の基礎になるので１年次に履修することが望ましい。

［講義計画］

1．文
2．動詞と文型
3．時制と相
4．態
5．話法
6．助動詞
7．法と条件文
8．否定
9．形容詞
10．形容詞の型
11．副詞類
12．情報構造
13．文の構成要素の移動

［成績評価の方法］

遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テストやレポートなどに基づき、総合的に評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

毎回 handouts を配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
アメリカ文学史		春学期集中	４単位	中　井　　紀　明

［講義概要・学習目標］

『白鯨』『スカーレット・レター』『偉大なるギャッツビー』『老人と海』『ボストンの人々』などは映画でお馴染みの作品だが、実はこれらはアメリカ文学史上傑作と認められている小説を映画化したものである。このような作品を産みだした源流を、英国から北米大陸への移民が始まった17世紀にまで辿り、そこから現代までのアメリカ文学の流れをアメリカ史を背景に講義する。現代文学を理解するにはその源流をしっかりと把握しておかなければならないので、毎回作品の原典を押さえながら講義を進めて行く。毎回渡される資料は英語としっかり格闘しながら読んでもらう。

［講義計画］

Part 1 A New Land, a New Literature (1607-1840)
Part 2 The New England Renaissance (1840-1855)
Part 3 The War Between the States (1855-1865)
Part 4 Realism and the Frontier (1865-1915)
Part 5 Modern Literature (1915-1945)
Part 6 Contemporary Literature (1946-Present)

［成績評価の方法］

定期試験(下記の教科書を精細に読んでいるかどうか、毎回配布される資料を、その意義を理解して読んでいるかどうかをチェックする試験になる)、および随時行うクイズの成績と平素の努力点、出席点。

［参考文献］

谷本泰三他著『初めて学ぶアメリカ文学史』（金星堂、1995）
『コロンビアアメリカ文学史』（山口書店）など。
（授業中に指示する）

［教科書］

Laurie E. Rozakis, Ph.D., *The Complete Idiot's Guide to American Literature*
（教室で注文の仕方を教えるが、すでに注文の経験があるものは各自アマゾン・ジャパンhttp://www.amazon.co.jpに注文して取り寄せること。送料無料で約２０００円）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
イギリス文学史 （旧イギリス文学史Ⅰ）		秋学期集中	４単位	金　城　盛　紀

［講義概要・学習目標］

イギリスの文学を中世における起源より現代まで、できるだけ作品に触れながら跡づける。時代背景や作家・作品の特徴などにも注意を向けるが、無味乾燥になりがちな抽象的説明は最小限にとどめて、作品を読むことによって文学の流れを追体験できればと願っている。そのためには相当の予習を必要とすることを強調しておきたい。努力はイギリス文学の豊かさと面白さを味わう形で十分に報いられると思う。

［講義計画］

指定テキスト以外にプリント資料も使用する。作品はできるだけテープ音声でも聴いていただき、対象によってはヴィデオも利用する。

［成績評価の方法］

試験と平常点

［参考文献］

図書館の指定参考書棚に取り揃えてある。

［教科書］

荒牧鉄雄・岡地嶺著　*Readings from English Literature*（英文学読本）（開文社出版）

英米 ~02

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
学科基礎演習	０１ ０２ ０３	通　期 通　期 通　期	４単位 ４単位 ４単位	小　野　良　子 佐々木　英　哲 中　井　紀　明

［演習概要・学習目標］

この基礎演習は必修ではないが、一年次で履修することが望ましい。この授業で新入生の諸君は、まず文学部英語英米文学科で学ぶ概要を把握したうえで、次の三つの技術の習得を目指すことになる。

（１）「知」を受け取る方法：　大学での授業の受け方（学習スキル）をいち早く身につける。

（２）「知」を消化する方法：　基本中の基本である英語を読み解く力を養う。そのために、

　a）パラグラフ・リーディングの技術を実践に移す。

　b）英英辞典に習熟する。

（３）「知」を発信する方法：　資料収集の方法、レポートの書き方、口頭発表、グループ討論などの方法を教わる。

［演習計画］

（１）パラグラフ・リーディングによる英文読解に、重点的な時間配分がなされる。素材には密度の濃い英文を使う。パラグラフ・リーディングのスキルを実践に移すことで、スキルの定着を図り、英文から必要な情報を抽出する力をつける。

（２）図書館、計算機センターのガイダンスを利用し、資料収集の方法を確認する。その後、担当教員から、学科レヴェルの基礎的な研究資料調査法の手ほどきを受ける。

（３）使用するテキストなどを素材とした口頭発表、グループ討論などを行って、発表、討論の技術を習得する。

（４）レポートのまとめかた（構成法）、文献引用の約束事などを学び、実際にレポートを書いてみる。

［成績評価の方法］

授業参加度、提出物（レポート）、試験等により、総合的に判断する。

［参考文献］

授業中に紹介する。

［教科書］

テキスト、英英辞典は、後日、指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
学科基礎演習	０１	通期	4単位	有川康二

［演習概要・学習目標］

（１）英語の運用能力をつける。
（２）地球上の言語、文化、思想の比較研究のための基礎を養う。
（３）どこにいようとも、地球・宇宙規模でものごとを考え、行動するための基礎を養う。
（４）授業の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、発表の仕方の基礎を学ぶ。

［演習計画］

（１）図書館利用ガイダンス
（２）計算機センター利用ガイダンス
（３）英語の運用能力の向上、及び、言語、文化、思想の比較研究の基礎を養うための訓練を行う。

［成績評価の方法］

出席・筆記試験

［教科書］

資料はこちらで準備する。

［参考文献］

その都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
学科基礎演習	０２	通　期	4単位	今　澤　浩　二

［演習概要・学習目標］

国際文化学科教育のめざすところは，「英語の運用能力の涵養に努め，世界の諸地域の文化と日本文化について，言語，文化，思想を比較しつつ研究，教授し，広く国際社会に活躍しうる人材の育成につとめる」ことである。一言で言えば，「行動する国際人」の育成である。あるいは世界の文化を理解する確かで豊かな目を持つ人材の育成と言い換えてもよいだろう。

本演習の目的は，この教育理念を具現化するために編成されている国際文化学科カリキュラムを効果的に履修するための基礎的な素養を身につけることにある。具体的内容としてはとくに，３年次になって専門演習をスムースに始められるようにレポートの書き方や研究発表の仕方に習熟することを重視する。

［演習計画］

１．履修指導：履修要項の見方やカリキュラムの概要を知る。
２．図書館の利用方法。
３．計算機センターの利用方法。
４．レポートの書き方。
５．文章指導。
６．プレゼンテーションの方法：自己紹介から研究発表まで。
７．講義の受け方，ノートの取り方。
８．読書指導・ブックレポートの作成。

［成績評価の方法］

出席（毎回出席が原則），積極発言，課題の提出などにより総合的に評価する。

［教科書］

なし。

［参考文献］

その都度，指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
学科基礎演習	03	通期	4単位	岩津洋二

[演習概要・学習目標]

国際文化学科教育のめざすところは、「英語の運用能力の涵養に務め、世界の諸地域の文化と日本の文化について、言語、文化、思想を比較しつつ研究、教授し、広く国際社会に活躍しうる人材の育成につとめる」ことである。一言で言えば「行動する国際人」の育成であり、世界の文化を理解する確かで豊かな目を持つ人材の育成と言い換えてもよいだろう。この演習では、この教育理念を具現化するために編成されている国際文化学科カリキュラムはを効果的に履修するための基礎的な素養を身につけることをめざす。

国際文化学科でどのような勉学が可能であるかまた望ましいかの履修指導を行い、あわせて学生生活一般のガイダンスを行う。これによって桃山学院大学生として文学部生としての自覚をもってもらいたい。具体的な内容としてはとくに、3年次になって専門演習をスムースに始められるようレポートの書き方や研究発表の仕方に習熟することを重視する。

[演習計画]

①履修指導。履修要項の見方やカリキュラムの概要を知る。
②図書館の利用方法。
③計算機センターの利用方法。
④レポートの書き方。問題の発見・設定、資料・情報の検索、情報の解読と統合、レポート作成。
⑤文章指導。
⑥プレゼンテーションの方法。自己紹介から研究発表まで。
⑦講義の受け方、ノートの取り方。
⑧読書指導・ブックレポートの作成。

[成績評価の方法]

毎回出席・積極発言・課題提出・目標達成

[参考文献]

その都度指示する。

[教科書]

なし

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
学科基礎演習	04	通期	4単位	片倉穣

[演習概要・学習目標]

国際文化学科「学科基礎演習」設定の趣旨に従い、世界の文化を正しく理解し、「世界の市民」にふさわしい人材を育成するため、この四年間、本学で「何をどう学ぶか」「学ぶための心構え」について助言・指導する。

大学時代は、自己の本質を発見し、自己の価値と可能性を高める機会であり、人間として成長する重要な時期でもある。この人生にとって大切な機会と時期の出発点(1年次)において、学生生活と学問研究の基礎的素養を身につける必要がある。新たな知識の習得はもとより、情報や技能の効率的な活用、しっかりとした思考方法の獲得により、自らの力で学ぶ喜びを感じ取ることができるようになると思う。

この演習では、少人数ゼミナールという利点を活かし、受講生の口頭発表とレポート作成、および全体討論を重視する。国際文化学科の学生としての帰属意識を強めると同時に、「何をどう学ぶか」「学ぶための心構え」を考える場の提供ができれば幸いである。

[演習計画]

(1) この演習の意義・目標
(2) 本演習の日程・年間計画
(3) 学生生活の全般的指導(学生時代とは、履修指導、受講方法、ノートのとり方等々)
(4) 自己評価「自分はなぜここにいるか」(口頭発表、討論)
(5) 大学施設の利用方法(図書館、情報センターその他)
(6) 読書指導(読後、口頭発表とレポート提出)
(7) 文章指導(作文・書評・小論文の指導)
(8) 模擬ミニシンポジウム(年1回、テーマは「時の話題」)
(9) 外国人留学生から学ぶ(「日本と外国の大学生の違い」、講師は本学の留学生)
(10) その他(ゼミ生の要望をとり入れた計画を考慮する)

<備考> (ア) 演習が軌道に乗った頃から、ゼミ生が交互に司会を担当する方法を採用する。
(イ) 年1回、「国際文化演習A1」(片倉ゼミ)を傍聴する予定である。

[成績評価の方法]

出席状況・口頭発表およびレポートなどにより評価する。

[参考文献]

授業中に紹介する。

[教科書]

使用しない。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
学科基礎演習	05	通期	4単位	小林信彦

[演習概要・学習目標]

国際文化学科教育のめざすところは、「英語の運用能力の涵養に務め、世界の諸地域の文化と日本の文化について、言語、文化、思想を比較しつつ研究、教授し、広く国際社会に活躍しうる人材の育成につとめる」ことである。一言で言えば「行動する国際人」の育成であり、世界の文化を理解する確かで豊かな目を持つ人材の育成と言い換えてもよいだろう。この演習では、この教育理念を具現化するために編成されている国際文化学科カリキュラムはを効果的に履修するための基礎的な素養を身につけることをめざす。

国際文化学科でどのような勉学が可能であるかまた望ましいかの履修指導を行い、あわせて学生生活一般のガイダンスを行う。これによって桃山学院大学生として文学部生としての自覚をもってもらいたい。具体的な内容としてはとくに、3年次になって専門演習をスムースに始められるようレポートの書き方や研究発表の仕方に習熟することを重視する。

[演習計画]

①履修指導。履修要項の見方やカリキュラムの概要を知る。
②図書館の利用方法。
③計算機センターの利用方法。
④レポートの書き方。問題の発見・設定、資料・情報の検索、情報の解読と統合、レポート作成。
⑤文章指導。
⑥プレゼンテーションの方法。自己紹介から研究発表まで。
⑦講義の受け方、ノートの取り方。
⑧読書指導・ブックレポートの作成。

[成績評価の方法]

毎回出席・積極発言・課題提出・目標達成

[参考文献]

その都度指示する。

[教科書]

なし

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
学科基礎演習	06	通期	4単位	ﾌｨﾘｯﾌﾟ Philip ﾋﾞﾘﾝｽﾞﾘｰ Billingsley

[演習概要・学習目標]

はるか30年前、入学間際にロンドンの本屋で見つけた本 How to be a Good Student は私の学生生活の船出となった。その本から習った勉強方法と姿勢―そして、学習することの楽しさーをこの基礎ゼミの受講生にぜひとも伝えたい。

今の世の中はとっても面白い。その気になれば、そして自分を磨けば、どこへでも行け、どんな事でも出来る。「自分を磨く」とはまず言語能力をつけること、それからグローバルな視野を持つこと。国際文化学科の教育理念はその両方を目指す。外国語（取りあえず英語）が話せて、世界の文化を理解できる豊かな目を持ち、それでなお自分の（日本などの）文化を再確認、再評価できる一言わば「積極的な国際人」を育てるのが国際文化学科の狙いである。この演習は学科のカリキュラムを効果的に履修するため、受講生の基礎的な素養を身につけることを目指す。

国際文化学科でどのような勉学が可能、また望ましいかの履修指導を行い、あわせて学生生活一般のガイダンスを行う。桃大生、そして文学部生の自覚を持ってもらうことと、3年次の専門演習をスムーズに履修できるよう、レポートの書き方や研究発表の仕方に習熟することを重視する。

[演習計画]

特に順番を決めていないけれど大体次ぎのことに焦点当てる。
①読書指導。本を楽しく読む方法。
②図書館の利用方法。
③情報センターの利用方法。
④レポートの書き方。問題の発見・設定、資料・情報の検索、情報の解読と統合、レポートの作成。
⑤履修指導とアドバイス。カリキュラムの概要を知る。
⑥プレゼンテーションの方法。自己紹介から研究発表まで。
⑦講義の受け方、ノートの取り方。
⑧ブックレポートの作成。
要するに"How to be a good student"を教えます!

[成績評価の方法]

毎回出席・積極的（毎回一回以上！）・目標達成

[参考文献]

今のところ、ない。（授業中指示する場合もある。）

[教科書]

ナシ

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
学科基礎演習	07	通期	4単位	深見純生

[演習概要・学習目標]

国際文化学科教育のめざすところは、「英語の運用能力の涵養に務め、世界の諸地域の文化と日本の文化について、言語、文化、思想を比較しつつ研究、教授し、広く国際社会に活躍しうる人材の育成につとめる」ことである。一言で言えば「行動する国際人」の育成であり、世界の文化を理解する確かで豊かな目を持つ人材の育成と言い換えてもよいだろう。この演習では、この教育理念を具現化するために編成されている国際文化学科カリキュラムはを効果的に履修するための基礎的な素養を身につけることをめざす。

国際文化学科でどのような勉学が可能であるかまた望ましいかの履修指導を行い、あわせて学生生活一般のガイダンスを行う。これによって桃山学院大学生として文学部生としての自覚をもってもらいたい。具体的な内容としてはとくに、3年次になって専門演習をスムースに始められるようレポートの書き方や研究発表の仕方に習熟することを重視する。

[演習計画]

①履修指導。履修要項の見方やカリキュラムの概要を知る。
②図書館の利用方法。
③計算機センターの利用方法。
④レポートの書き方。問題の発見・設定、資料・情報の検索、情報の解読と統合、レポート作成。
⑤文章指導。
⑥プレゼンテーションの方法。自己紹介から研究発表まで。
⑦講義の受け方、ノートの取り方。
⑧読書指導・ブックレポートの作成。

[成績評価の方法]

毎回出席・積極発言・課題提出・目標達成

[教科書]

なし

[参考文献]

その都度指示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
学科基礎演習	08	通期	4単位	梅山秀幸

[演習概要・学習目標]

君達は一年生でこの大学のことはまだなにも知らない。実は、授業担当者（梅山）もこの4月からこの大学に来ることになったので、君たちと同じく、まだ何も知らないのです。一番困るのは、図書館のどこにどのような本があるか、まだ知らないこと。そこで、君たちといっしょに、まずは図書館に行き、中を探索したい。そうして、本を借りまくることにしましょう。廉価で買える文庫版や新書版の課題本は、君たちが買ってください。いっしょに読んで、感想を発表してもらいます。口頭で、あるいは文章で。しかし、課題本だけの読書では不充分です。ただ、本ばかり読んで頭でっかちになっても困る。実際に歩いて、物事を見ること。機会が許せば、民族学博物館にも行きたいし、奈良の寺々も歩きたい。ただし、残念ながら、U.S.J.にはたぶん行きません。

[演習計画]

1、履修要項の見方およびカリキュラムの概要を知る。
2、図書館をどう利用するか。
3、計算機センターをどう利用するか。
4、いかに文章を書くか。実際に書いてもらって、添削する（これは繰り返す）。
5、読書し、かつ書評をする（高度な作文）。
6、読書、あるいは調査をして口頭で発表する（人前で話す練習）。

[成績評価の方法]

出席状況と発表による。試験は課さない

[教科書]

なし

[参考文献]

授業時に指示します。

国際
~02